

令和4年5月1日制定
令和5年4月1日改定

美馬市土木工事共通仕様書

企画総務部総務課

美馬市における土木工事共通仕様書については徳島県土木工事共通仕様書を準拠することとしているが、そのまま準拠する場合、美馬市で運用している規則や要綱、事務提要等との整合性が必ずしも図れないことから、第1編共通編については、整合性を図る観点から、美馬市土木工事共通仕様書(案)として運用できるよう徳島県土木工事共通仕様書の一部を修正したものである。なお、美馬市で運用している規則や要綱、事務提要と本土木共通仕様書に齟齬がある場合は、規則や要綱、事務提要を優先する。また、第2編以降については、土木工事を実施する上で、技術的な内容であることから、原則として徳島県土木工事共通仕様書に準拠し運用を図るものとする。

第1編 共通編	1
第1章 総則	1
第1節 総則	1
1-1-1-1 適用	1
1-1-1-2 用語の定義	1
1-1-1-3 設計図書の照査等	6
1-1-1-4 工程表	6
1-1-1-5 施工計画書	6
1-1-1-6 工事実績データの登録	7
1-1-1-7 監督員	8
1-1-1-8 監督補助員	8
1-1-1-9 現場技術員	8
1-1-1-10 工事用地等の使用	8
1-1-1-11 工事着手	9
1-1-1-12 工事の下請負	9
1-1-1-13 施工体制台帳及び施工体系図	10
1-1-1-14 土木施工管理技術検定制度等の活用	10
1-1-1-15 現場代理人及び主任技術者等	11
1-1-1-16 受注者相互の協力	14
1-1-1-17 調査・試験に対する協力	14
1-1-1-18 工事の一時中止	15
1-1-1-19 設計図書の変更	16
1-1-1-20 工期変更	16
1-1-1-21 支給材料及び貸与品	16
1-1-1-22 工事現場発生物	17
1-1-1-23 建設副産物	17
1-1-1-24 監督員による確認及び立会等	19
1-1-1-25 数量の算出	22
1-1-1-26 工事完成図	22
1-1-1-27 工事完成図書等の納品	22
1-1-1-28 しゅん工検査	22
1-1-1-29 部分払検査等	23

1-1-1-30	中間検査	24
1-1-1-31	部分使用	24
1-1-1-32	施工管理	24
1-1-1-33	履行報告	25
1-1-1-34	工事関係者に対する措置請求	26
1-1-1-35	工事中の安全確保	26
1-1-1-36	爆発及び火災の防止	29
1-1-1-37	後片付け	30
1-1-1-38	事故報告書	30
1-1-1-39	環境対策	30
1-1-1-40	文化財の保護	33
1-1-1-41	交通安全管理	33
1-1-1-42	施設管理	35
1-1-1-43	諸法令の遵守	36
1-1-1-44	官公庁等への手続等	38
1-1-1-45	施工時期及び施工時間の変更	38
1-1-1-46	工事測量	39
1-1-1-47	不可抗力による損害	39
1-1-1-48	特許権等	40
1-1-1-49	保険の付保及び事故の補償	40
1-1-1-50	臨機の措置	41
1-1-1-51	新技術活用の促進	41
1-1-1-52	市内産技術等の優先使用	41
1-1-1-53	標準断面図板の設置	41
1-1-1-54	しゅん工標の設置	42
1-1-1-55	創意工夫	43
1-1-1-56	不正軽油の使用禁止	43
1-1-1-57	暴力団等からの不当要求又は工事妨害の排除	43
1-1-1-58	ワンデーレスポンス	44
1-1-1-59	地元建設資材の優先使用	44

第 1 編 共通編

第 1 章 総 則

第1節 総 則

1-1-1-1 適 用

1.適用工事

美馬市土木工事共通仕様書(以下「共通仕様書」という。)は,美馬市が発注する河川工事,砂防工事,ダム工事,道路工事,公園緑地工事,下水道工事,その他これらに類する工事(以下「工事」という。)に係る,工事請負契約書(頭書を含み以下「契約書」という。)及び設計図書の内容について,統一的な解釈及び運用を図るとともに,その他必要な事項を定め,もって契約の適正な履行の確保を図るためのものである。

2.共通仕様書の適用

受注者は,共通仕様書の適用にあたっては,建設業法第18条に定める建設工事の請負契約の原則に基づく施工管理体制を遵守しなければならない。また,これら監督,検査(しゅん工検査,部分払検査)にあたっては,地方自治法施行令第167条の15に基づくものであることを認識しなければならない。

3.契約の履行の拘束

契約図書は相互に補完し合うものとし,契約書又は設計図書のいずれかによって定められている事項は,契約の履行を拘束するものとする。

4.優先事項

図面,特記仕様書及び工事数量総括表に記載された事項は,本共通仕様書に優先する。

5.設計図書間の不整合

受注者は,特記仕様書,図面,工事数量総括表の間に相違がある場合,又は図面からの読み取りと図面に書かれた数字が相違する場合は,監督員に確認して指示を受けなければならない。

6.工事の履行

受注者は,信義に従って誠実に工事を履行し,監督員の指示がない限り工事を継続しなければならない。ただし,美馬市公共工事標準請負契約約款(以下「約款」という。)第27条に定める内容等の措置を行う場合は,この限りではない。

7.SI単位

設計図書は,SI単位を使用するものとする。SI単位については,SI単位と非SI単位が併記されている場合は()内を非SI単位とする。

8.工事書類の保管

受注者は,提示が義務付けられている書類の整備・保管に努め,監督員の請求があった場合は直ちに提示しなければならない。

なお,提示した書類については,工事しゅん工後,原則5年間保管するものとする。ただし,関係法令等で,5年以上の保存期間が定められている場合には,この限りではない。

9.重要事項の書面及び押印

監督員及び受注者は、後々の紛争を未然に防止するために必要になると判断した事項については、書面及び押印を省略しないものとする。

1-1-1-2 用語の定義

1.監督員

監督員とは、総括監督員、主任監督員、現場監督員を総称していう。

なお、総括監督員の明示のない場合における主任監督員は総括監督員の権限を、総括監督員及び主任監督員の明示のない場合における現場監督員は総括監督員及び主任監督員の権限を、現場監督員の明示のない場合における主任監督員は現場監督員の権限をそれぞれに併せて有するものとする。

2.総括監督員

総括監督員とは、監督総括業務を担当し、主に、受注者に対する指示、承諾又は協議及び関連工事の調整のうち重要なものの処理、及び一時中止又は打切りの必要があると認める場合における契約担当者に対する報告等を行う者をいう。

3.主任監督員

主任監督員とは、現場監督総括業務を担当し、主に、受注者に対する指示、承諾又は協議(重要なもの及び軽易なものを除く。)の処理、受注者が作成した図面(軽易なものを除く。)の承諾を行い、また、契約図書に基づく工程の管理、立会、段階確認、工事材料の試験又は検査の実施(他のものに実施させ当該実施を確認することを含む。)で重要なものの処理、関連工事の調整(重要なものを除く。)、一時中止又は打切りの必要があると認める場合における総括監督員への報告を行う者をいう。

4.現場監督員

現場監督員とは、一般監督業務を担当し、主に受注者に対する指示、承諾又は協議で軽易なものの処理、工事实施のための詳細図等の作成及び交付又は受注者が作成した図面のうち軽易なものの承諾を行い、また、契約図書に基づく工程の管理、立会、段階確認、工事材料の試験若しくは検査の実施(重要なものを除く。)を行う者をいう。

また、設計図書の変更、一時中止又は打切りの必要があると認める場合における主任監督員への報告を行う者をいう。

5.契約図書

契約図書とは、契約書及び設計図書をいう。

6.設計図書

設計図書とは、仕様書、図面、現場説明書及び現場説明に対する質問回答書をいう。

なお、契約図書に基づき監督員が受注者に指示した書面及び受注者が提出し監督員が承諾した書面は、設計図書に含むものとする。

7.仕様書

仕様書とは、各工事に共通する共通仕様書と各工事ごとに規定される特記仕様書及び工事数量総括表を総称していう。

8.共通仕様書

共通仕様書とは、各建設作業の順序、使用材料の品質、数量、仕上げの程度、施工方法等工事を施工する上で必要な技術的要求、工事内容を説明したもののうち、あらかじめ定型的な内容を盛り込み作成した図書をいう。

9.特記仕様書

特記仕様書とは、共通仕様書を補足し、工事の施工に関する明細又は工事に固有の技術的要求を定めた図書をいう。

10.現場説明書

現場説明書とは、工事の入札に参加するものに対して発注者が当該工事の契約条件等を説明するための書類をいう。

11.質問回答書

質問回答書とは、質問受付時に入札参加者が提出した契約条件等に関する質問に対して発注者が回答する書面をいう。

12.図 面

図面とは、入札に際して発注者が示した設計図、発注者から変更又は追加された設計図、工事完成図、設計図の基となる設計計算書等をいう。

13.工事数量総括表

工事数量総括表とは、工事施工に関する工種、設計数量及び規格を示した書類をいう。

14.指 示

指示とは、契約図書の定めに基づき、監督員が受注者に対し、工事の施工上必要な事項について書面により示し、実施させることをいう。ただし、軽易なもので受注者が同意したものについては、書面を省略できるものとする。

15.承 諾

承諾とは、契約図書で明示した事項について、発注者若しくは監督員又は受注者が書面により同意することをいう。ただし、軽易なもので監督員又は受注者が同意したものについては、書面を省略できるものとする。

16.協 議

協議とは、契約図書の協議事項について、発注者又は監督員と受注者が対等の立場で合議し、書面により結論を得ることをいう。ただし、軽易なもので結論を得たものについては、書面を省略できるものとする。

17.提 出

提出とは、受注者が監督員に対し工事に係わる書面又はその他の資料を説明し、差し出すことをいう。

18.提 示

提示とは、監督員が受注者に対し、又は受注者が監督員又は検査員に対し工事に係わる書面又はその他の資料を示し、説明することをいう。

19.報 告

報告とは、受注者が監督員に対し、工事の状況又は結果について書面により知らせることをいう。ただし、軽易なものについては、書面を省略できるものとする。

20.通 知

通知とは、発注者又は監督員と受注者又は現場代理人の間で、工事の施工に関する事項について、書面により互いに知らせることをいう。

21.連 絡

連絡とは、監督員と受注者又は現場代理人の間で、約款第18条に該当しない事項又

は緊急で伝達すべき事項について、口頭、ファクシミリ、電子メールなどの署名又は押印が不要な手段により互いに知らせることをいう。

なお、後日書面による連絡内容の伝達は不要とする。

22.納品

納品とは、受注者が監督員に工事完成時に成果品を納めることをいう。

23.電子納品

電子納品とは、電子成果品を納品することをいう。

24.書面

書面とは、手書き、印刷物等の伝達物をいい、発行年月日を記載し、署名又は押印したものを有効とする。ただし、重要なものを除き、電子メール等を活用した伝達物も有効とし、押印を省略できるものとする。

なお、重要なもので緊急を要する場合には、ファクシミリ又は電子メールにより伝達できるものとするが、後日有効な書面と差し替えるものとする。

25.工事完成図書

工事完成図書とは、工事完成時に納品する成果品をいう。

26.電子成果品

電子成果品とは、電子的手段によって発注者に納品する成果品となる電子データをいう(美馬市発注工事では適用していない)。

27.確認

確認とは、契約図書に示された事項について、監督員、検査員又は受注者が臨場もしくは関係資料により、その内容について契約図書との適合を確かめることをいう。

28.立会

立会とは、契約図書に示された項目について、監督員が臨場により、その内容について契約図書との適合を確かめることをいう。

29.段階確認

段階確認とは、設計図書に示された施工段階又は監督員の指示した施工段階において、監督員が臨場又は関係資料により、出来形、品質、規格、数値等を確認することをいう。

30.しゅん工検査

しゅん工検査とは、検査員が約款第32条第2項(約款第39条第1項において準用する場合を除く。)の規定に基づいて受注者が施工した工事目的物と契約図書を照合して工事の完成を確認することをいう。

31.部分払検査

部分払検査とは、工事の完成前に、受注者からの請求に基づき、検査員が約款第38条第3項又は約款第39条第1項に基づいて、工事の出来形部分、工事現場に搬入済みの工事材料若しくは製造工場等にある工場製品又は同項に規定する指定部分について、契約図書と照合して工事の既成部分を確認することをいう。

32.中間検査

中間検査とは、工事の施工途中において、検査員が工事の出来形部分、工事現場に搬入済みの工事材料若しくは製造工場等にある工場製品について、設計図書と照合して工事の施工状況を確認することをいう。

33.検査員

検査員とは、約款第32条第2項の規定に基づき、工事検査を行うために発注者が定めた者をいう。

34.同等以上の品質

同等以上の品質とは、設計図書で指定する品質又は設計図書に指定がない場合は監督員が承諾する試験機関の品質確認を得た品質若しくは監督員の承諾した品質をいう。

なお、試験機関において品質を確かめるために必要となる費用は、受注者の負担とする。

35.工期

工期とは、契約書に明示した工事を実施するために要する準備及び後片付け期間を含めた着工の日から完成の日までの期間をいう。

36.工事開始日

工事開始日とは、契約書に明示した工事の着工の日(特記仕様書において着工の日を別に定めた場合にあっては、その日)をいう。

37.工事着手日

工事着手日とは、工事開始日以降で実際の工事のための準備工事(現場事務所等の設置又は測量を開始することをいう。)の初日をいう。

38.工事

工事とは、本体工事及び仮設工事、又はそれらの一部をいう。

39.本体工事

本体工事とは、設計図書に従って、工事目的物を施工するための工事をいう。

40.仮設工事

仮設工事とは、各種の仮工事であって、工事の施工及び完成に必要とされるものをいう。

41.工事区域

工事区域とは、工事用地、その他設計図書で定める土地又は水面の区域をいう。

42.現場

現場とは、工事を施工する場所、工事の施工に必要な場所及び設計図書で明確に指定される場所をいう。

43.SI

SIとは、国際単位系をいう。

44.現場発生品

現場発生品とは、工事の施工により現場において副次的に生じたもので、その所有権は発注者に帰属する。

45.JIS規格

JIS規格とは、日本工業規格をいう。

46.天災等

天災等とは、暴風、豪雨、洪水、高潮、地震、地すべり、落盤、火災、騒乱、暴動、その他の自然的又は人為的な事象をいう。

47.交通誘導警備員A

交通誘導警備員Aとは、警備業法第4条による認定を受けた警備業者の警備員で、交通誘導警備業務（警備員等の検定等に関する規則第1条第4号に規定する交通誘導警備業務をいう。）に従事する交通誘導警備業務に係る一級検定合格警備員又は二級検定合格警備員をいう。

48.交通誘導警備員B

交通誘導警備員Bとは、警備業法第4条による認定を受けた警備業者の警備員で、交通誘導警備員A以外の交通の誘導に従事するものをいう。

1-1-1-3 設計図書の照査等

1.図面原図の貸与

受注者からの要求があり、監督員が必要と認めた場合、受注者に図面の原図を貸与することができる。ただし、共通仕様書、徳島県土木工事施工管理基準等、市販・公開されているものについては、受注者が備えなければならない。

2.設計図書の照査

受注者は、施工前及び施工途中において、自らの負担により約款第18条第1項第1号から第5号に係る設計図書の照査を行い、該当する事実がある場合は、監督員にその事実が確認できる資料を書面により提出し、確認を求めなければならない。

なお、確認できる資料とは、現地地形図、設計図との対比図、取合い図、施工図等を含むものとする。また、受注者は、監督員から更に詳細な説明又は書面の追加の要求があった場合は従わなければならない。

3.契約図書等の使用制限

受注者は、契約の目的のために必要とする以外は、契約図書、及びその他の図書を監督員の承諾なくして第三者に使用させ、又は伝達してはならない。

1-1-1-4 工程表

1.工程表の提出

受注者は、約款第3条に規定する工程表を所定の様式に基づき作成し、契約締結後土曜日、日曜日、祝日等を除き10日以内に監督員に提出しなければならない。

2.工程表の省略

受注者は、次のいずれかに該当する場合に限り、監督員の承諾を得たうえで工程表の作成及び監督員への提出を省略できるものとする。

- (1) 当初の契約工期が30日未満となる場合の当初工程表
- (2) (1)に該当するもののうち、契約変更により工期が30日以上となる場合の変更工程表。ただし、工期延伸により60日以上となる場合は省略できない。
- (3) 契約変更時の残工期が30日未満となる場合の変更工程表
- (4) 契約変更時において、工程に影響がない軽微な数量の増減となる場合の変更工程表
- (5) 契約締結後土曜日、日曜日、祝日等を除き10日までに施工計画書が提出された場合の当初工程表

1-1-1-5 施工計画書

1.一般事項

受注者は、当初請負代金額が2,000万円以上の工事、低入札価格調査制度の低入札価格調査基準価格を下まわって落札した工事（以下「低入札工事」という。）及び仕様

書に明記のある工事においては、工事着手前に工事目的物を完成するために必要な手順や工法等についての施工計画書を監督員に提出しなければならない。

なお、低入札工事において、施工計画書の内容についての重点的なヒアリングを発注者から求められた場合には、応じなければならない。

受注者は、施工計画書を遵守し工事の施工に当たらなければならない。

受注者は、施工計画書に以下の事項について記載しなければならない。また、監督員がその他の項目について補足を求めた場合には、追記するものとする。ただし、維持工事等簡易な工事においては、監督員の承諾を得て記載内容の一部を省略することができる。

- (1) 工事概要
- (2) 計画工程表
- (3) 現場組織表
- (4) 指定機械の搬入計画及び仕様
- (5) 主要船舶・機械の搬入計画及び仕様
- (6) 主要資材の搬入計画及び仕様
- (7) 施工方法(主要機械, 仮設備計画, 工事用地等を含む。)
- (8) 施工管理計画
- (9) 安全管理
- (10) 緊急時の体制及び対応
- (11) 交通管理
- (12) 環境対策
- (13) 現場作業環境の整備
- (14) 再生資源の利用の促進と建設副産物の適正処理方法
- (15) その他

2. 変更施工計画書

受注者は、施工計画書の内容に重要な変更が生じた場合には、その都度当該工事に着手する前に変更に関する事項について、変更施工計画書を監督員に提出しなければならない。ただし、数量のわずかな増減等の軽微な変更で施工計画に大きく影響しないときは、この限りではない。

3. 詳細施工計画書

受注者は、施工計画書を提出した際、監督員が指示した事項について、さらに詳細な施工計画書を提出しなければならない。

4. 当初未確定な部分の施工計画書

受注者は、第1項に示す工事において、工事着手日(設計図書に定めのある場合を除き、特別の事情がない限り、工事開始日以降 30 日以内)までに未確定な部分(施工方法等の詳細が定まっていない場合等)の施工計画書は作成せず、詳細が確定した段階で、当該部分の施工計画書を作成し、監督員に提出することができるものとする。

1-1-1-6 工事实績データの登録

受注者は、請負代金額が500万円以上の工事については受注・変更・しゅん工・訂正時に、工事实績情報サービス(コリンズ)に基づき、工事实績情報として「登録のための確認のお願い」を作成し監督員の確認を受けた上、受注時は契約後、土曜日、日曜日、祝日

等を除き10日以内に、登録内容の変更時は変更があった日から土曜日、日曜日、祝日等を除き10日以内に、しゅん工時は工事しゅん工承認後、土曜日、日曜日、祝日等を除き10日以内に、訂正時は適宜登録機関に登録をしなければならない。

なお、変更登録は、工期、技術者に変更が生じた場合に行うものとし、請負代金額のみの変更の場合は、原則として登録を必要としない。

また、登録機関発行の「登録内容確認書」が受注者に届いた際には、速やかに監督員に提示しなければならない。

なお、変更時としゅん工時の間が10日間に満たない場合は、変更時の提示を省略できるものとする。

1-1-1-7 監督員

1.監督員の権限

当該工事における監督員の権限は、約款第9条第2項に規定した事項である。

2.監督員の権限の行使

監督員がその権限を行使する時は、書面により行うものとする。ただし、緊急を要する場合は監督員が、受注者に対し口頭による指示等を行えるものとする。口頭による指示等が行われた場合には、後日書面により監督員と受注者の両者が指示内容等を確認するものとする。

1-1-1-8 監督補助員

受注者は、設計図書で監督補助員の配置が明示された場合又は契約担当者が通知した場合は、次の各号によらなければならない。

- (1) 受注者は、監督補助員が監督員に代わり現場に臨場し、立会等を行う場合には、その業務に協力しなければならない。また、書類（計画書、報告書、データ、図面等）の提出に際し、説明を求められた場合にはこれに応じなければならない。
- (2) 監督補助員は、約款第9条に規定する監督員ではなく、指示、承諾、協議及び確認の適否等を行う権限は有しないものである。ただし、監督員から受注者に対する指示、通知等を監督補助員を通じて行うことがある。
- (3) 受注者が監督員に対して行う報告又は通知は、監督補助員を通じて行うことができる。

1-1-1-9 現場技術員

受注者は、設計図書で建設コンサルタント等に委託した現場技術員の配置が明示された場合又は契約担当者が通知した場合は、次の各号によらなければならない。

- (1) 受注者は、現場技術員が監督員に代わり現場に臨場し、立会等を行う場合には、その業務に協力しなければならない。また、書類（計画書、報告書、データ、図面等）の提出に際し、説明を求められた場合にはこれに応じなければならない。
- (2) 現場技術員は、約款第9条に規定する監督員ではなく、指示、承諾、協議及び確認の適否等を行う権限は有しないものである。ただし、監督員から受注者に対する指示、通知等を現場技術員を通じて行うことがある。
- (3) 受注者が監督員に対して行う報告又は通知は、現場技術員を通じて行うことができる。

1-1-1-10 工事用地等の使用

1.維持・管理

受注者は、発注者から使用承認あるいは提供を受けた工事用地等は、善良なる管理者の注意をもって維持・管理しなければならない。

2.用地の確保

受注者は、設計図書において受注者が確保するものとされる用地及び工事の施工上受注者が必要とする用地については、自ら準備し、確保しなければならない。この場合において、工事の施工上受注者が必要とする用地とは、営繕用地（受注者の現場事務所、宿舍、駐車場）及び型枠又は鉄筋作業場等専ら受注者が使用する用地並びに構造物掘削等に伴う借地等をいう。

3.第三者からの調達用地

受注者は、工事の施工上必要な土地等を第三者から借用したときは、その土地等の所有者との間の契約を遵守し、その土地等の使用による苦情又は紛争が生じないように努めなければならない。

4.用地の返還

受注者は、第1項に規定した工事用地等の使用終了後は、設計図書の定め又は監督員の指示に従い復旧の上、速やかに発注者に返還しなければならない。工事の完成前に発注者が返還を要求した場合も速やかに発注者に返還しなければならない。

5.復旧費用の負担

発注者は、第1項に規定した工事用地等について受注者が復旧の義務を履行しないときは、受注者の費用負担において自ら復旧することができるものとし、その費用は受注者に支払うべき請負代金額から控除するものとする。この場合において、受注者は、復旧に要した費用に関して発注者に異議を申し立てることができない。

6.用地の使用制限

受注者は、提供を受けた用地を工事用仮設物等の用地以外の目的に使用してはならない。

1-1-1-11 工事着手

受注者は、設計図書に定めのある場合を除き、特別の事情がない限り、工事開始日以降30日以内に工事着手しなければならない。

1-1-1-12 工事の下請負

1.一般事項

受注者は、下請負に付する場合には、以下の各号に掲げる要件をすべて満たさなければならない。

- (1) 受注者が、工事の施工につき総合的に企画、指導及び調整するものであること。
- (2) 下請負者が美馬市又は徳島県の入札参加資格者である場合には、入札参加資格停止期間中でないこと。
- (3) 下請負者は、当該下請負工事の施工能力を有すること。
- (4) 受注者は、下請契約を締結するときは、適正な額の請負代金での下請契約の締結に努めなければならない。

2.下請負人の優先選定

受注者は、本工事の一部を下請に付する場合、美馬市内に主たる営業所を有する者の中から優先して選定するよう努めるものとする。

なお、美馬市外に主たる営業所を有する者と下請契約する場合は、市外業者を選定した理由を記載した文書を監督員に提出しなければならない。

1-1-1-13 施工体制台帳及び施工体系図

1.施工体制台帳の作成

受注者は、下請契約(以下の3及び4の場合を含む。)を締結した場合は、施工体制台帳及び再下請負通知書(以下「施工体制台帳」という。)を自らの責任において作成・保存するとともに、施工体制台帳を工事現場に備え置かなければならない。

2.施工体系図の作成及び掲示

受注者は、下請契約(以下の3及び4の場合を含む。)を締結した場合は、各下請負者の施工の分担関係を表示した施工体系図を作成し、公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律に従って、工事関係者が見やすい場所及び公衆が見やすい場所に掲げなければならない。

3.警備業者の記載

受注者は、交通誘導警備員を配置するときは、警備業者を含めて施工体制台帳及び施工体系図を作成・保存しなければならない。

4.運搬業者の記載

受注者は、土砂等を運搬する大型自動車等を配置するときは、運搬業者を含めて施工体制台帳及び施工体系図を作成・保存しなければならない。

5.施工体制台帳及び施工体系図の提出

受注者は、下請契約を締結したときは下請契約日から、内容に変更が生じたときは変更が生じた日から、いずれも土曜日、日曜日、祝日等を除き10日以内に、施工体制台帳の写し及び施工体系図の写しを監督員に提出し、確認を受けなければならない。ただし、提出日について、監督員が承諾したときはこの限りではない。

6.再下請負通知書を提出する旨の書面の掲示

受注者は、再下請負通知書を提出する旨の書面を、工事現場の公衆が見やすい場所に掲示しなければならない。

7.低入札工事におけるヒアリング

受注者は、低入札工事の場合で、施工体制台帳の内容についての重点的なヒアリングを発注者から求められたときは、受注者は応じなければならない。

1-1-1-14 土木施工管理技術検定制度等の活用

1.当初請負対象金額4,500万円以上9,000万円未満の土木一式工事又は舗装工事

受注者は、土木一式工事又は舗装工事の場合で、当初請負対象金額が4,500万円以上9,000万円未満となるときは、主任技術者又は監理技術者を定めるに当たり、次の者を選定しなければならない。

- (1) 建設業法による技術検定(以下「技術検定」という。)のうち検定種目を一級若しくは二級の土木施工管理又は一級若しくは二級の建設機械施工(管理)とするものに合格した者
- (2) 技術士法による第二次試験のうち技術部門を建設部門、農業部門(選択科目を「農業土木又は農業農村工学」とするものに限る。)、森林部門(選択科目を「森林土木」とするものに限る。)、水産部門(選択科目を「水産土木」とするものに限る。)又は総合技術監理部門(選択科目を建設部門に関するもの、「農業土木又は農業農村工学」、

「森林土木」、「水産土木」とするものに限る。)とするものに合格した者。ただし、舗装工事については、技術士法による第二次試験のうち技術部門を建設部門又は総合技術監理部門(選択科目を建設部門に関するものに限る。)とするものに合格した者のみとする。

- (3) 監理技術者資格者証の交付を受けている者(土木一式工事については土木工事業、舗装工事については舗装工事業に関するものに限る。)

2.当初請負対象金額9,000万円以上の土木一式工事又は舗装工事

受注者は、土木一式工事又は舗装工事の場合で、当初請負対象金額が9,000万円以上となるときは、主任技術者又は監理技術者を定めるに当たり、次の者を選定しなければならない。

- (1) 技術検定のうち検定種目を一級の土木施工管理又は一級の建設機械施工(管理)とするものに合格した者
- (2) 前項第2号に掲げる者
- (3) 前項第3号に掲げる者

1-1-1-15 現場代理人及び主任技術者等

1.選任通知

- (1) 受注者は、「現場代理人及び主任技術者等選任通知書」(以下「選任通知書」という。)を、総合評価落札方式の場合は落札候補者となった時点で契約事務担当者へ、総合評価落札方式以外の場合は、契約後土曜日、日曜日、祝日等を除き10日以内に、請負代金額が4,000万円以上の場合は、契約前に監督員へ提出し、確認を受けなければならない。ただし、共同企業体の場合は、代表構成員は現場代理人及び主任技術者又は監理技術者を選任することとし、その他の構成員は主任技術者を選任することとする。

なお、この選任通知書の提出後、その内容を変更しようとする場合は、監督員と協議しなければならない。また、監督員との協議により変更が認められたときは、変更日から土曜日、日曜日、祝日等を除き10日以内に監督員に変更した選任通知書を提出し、確認を受けなければならない。

- (2) 受注者は、請負代金額が200万円未満の場合で、契約後土曜日、日曜日、祝日等を除き10日以内に「着手予定届」を提出し、監督員が認めたときは、着手予定日までに選任通知書を提出すればよいものとする。ただし、着手予定日については、監督員と協議の上決定しなければならない。
- (3) 受注者は、選任通知書提出時に次のものを提示しなければならない。ただし、入札管理システムに登録されている技術者等については、雇用関係が確認できる書類の提出を要しないものとする。なお、提示物は 写しでも可とする。
- ① 現場代理人と受注者(共同企業体の場合は代表構成員)との直接的かつ恒常的な雇用関係が確認できるもの(健康保険証等)。ただし、請負対象金額が200万円未満の工事を除くものとするが、監督員が特に必要と認める場合には提示を求めることができるものとする。
 - ② 主任技術者又は監理技術者と受注者(共同企業体の場合は各構成員)との直接的かつ恒常的な雇用関係が確認できるもの(健康保険証等)。ただし、監理技術者資格者証で確認できる場合は、この限りでない。なお、入札参加資格として技術者の専任

配置が求められた工事における主任技術者又は監理技術者は、開札日(随意契約は見積書提出日)以前に受注者と3ヶ月以上の雇用関係がなければならない。

(4) 受注者は、選任通知書に次のものを添付しなければならない。ただし、入札管理システムに登録されている技術者については、技術者取得資格証明書等の書類の提出を要しないものとする。

① 主任技術者又は監理技術者の資格又は実務経験

・建設業法第7条第2号ハ、及び同法第15条第2号イ又はハに該当する有資格者(土木施工管理技士等)については、技術者取得資格証明書(技術検定に合格した者については、合格証明書受領までの期間(合格通知書の交付日より半年程度)は合格通知書で可)

・建設業法第7条第2号イ又はロ、及び同法第15条第2号ロに該当するものについては、実務経験証明書

② 監理技術者を選任した場合(下請金額の総額が4,500万円以上)は、監理技術者資格者証及び監理技術者講習修了証(それぞれ表、裏とも)

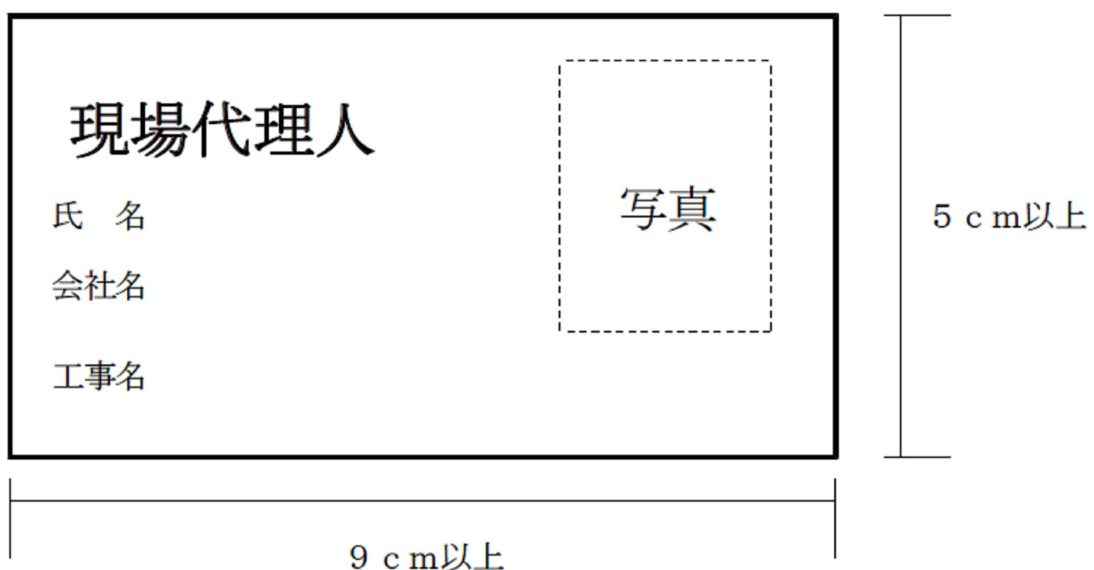
2.技術者台帳

受注者は、請負代金額が200万円以上の場合で、徳島県内に建設業法上の主たる営業所を有するものについては、契約後土曜日、日曜日、祝日等を除き10日以内に、別に定める技術者台帳を提示し、監督員の確認を受けなければならない。また、工事しゅん工検査請求書を提出する時も、再度技術者台帳を提示し、監督員の確認を受けなければならない。

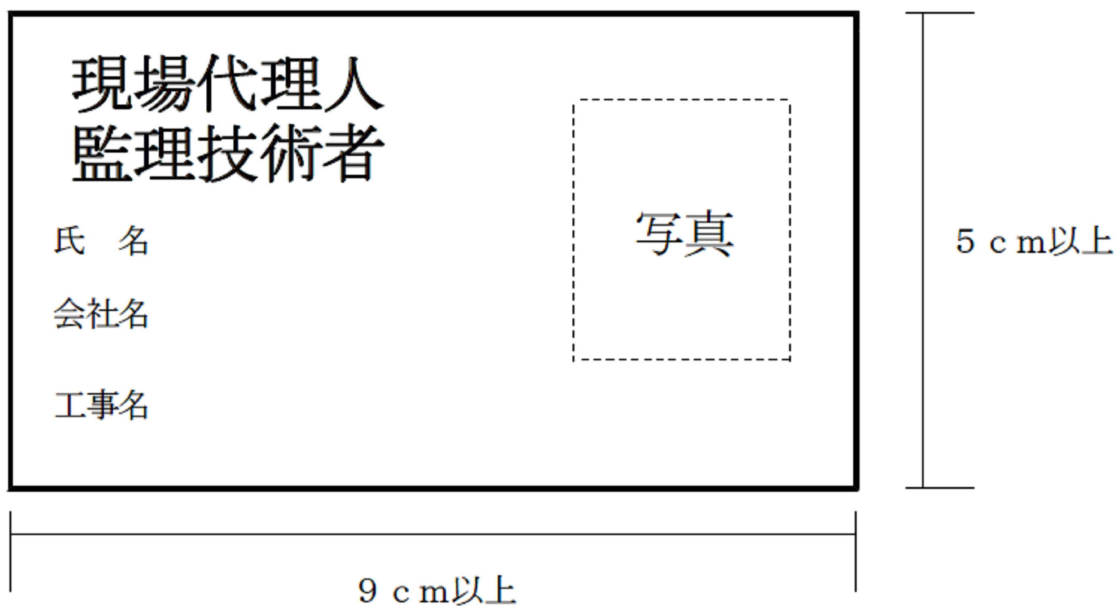
3.名札の着用

受注者は、当該工事の現場代理人、主任技術者、監理技術者及び監理技術者補佐に、氏名、会社名、工事名及び顔写真の入った名札を着用させなければならない。名札は、図1-1-1を標準とする。(監理技術者補佐は、建設業法第26条第3項ただし書に規定する者をいう。)

ア 現場代理人の場合



イ 現場代理人と監理技術者が兼任の場合



ウ 現場代理人と主任技術者が兼任の場合

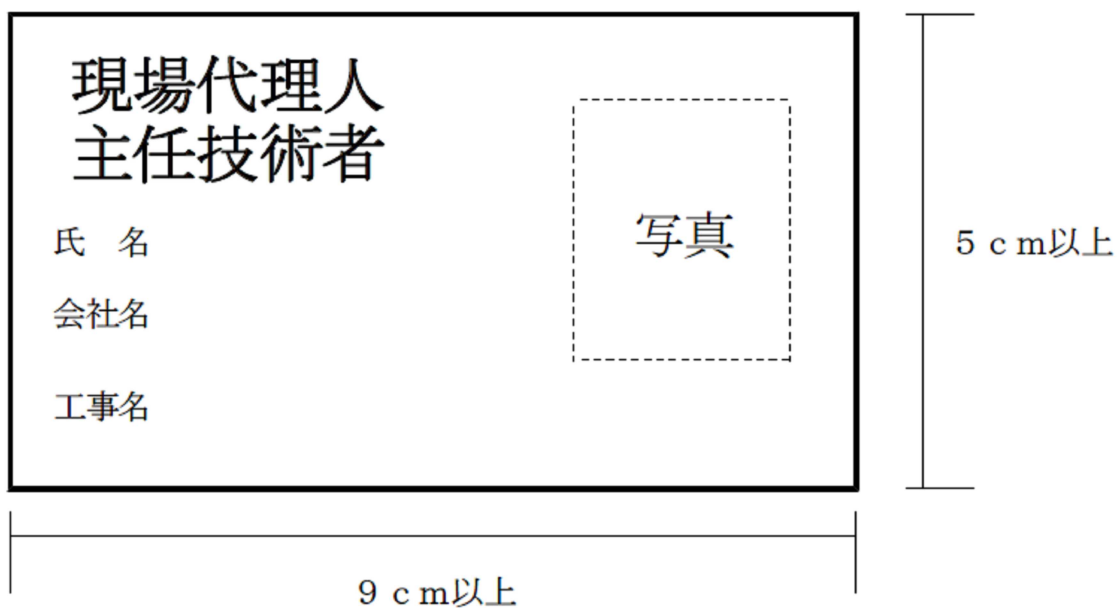


図1-1-1 名札の標準様式

4.低入札技術者

受注者は、当該工事が低入札工事となった場合は、主任技術者、監理技術者又は監理技術者補佐とは別に、受注者と直接的かつ恒常的な雇用関係にある者で、当該工事に関し建設業法第7条第2号イ、ロ又はハに該当する技術者を1名増員し、専任させなけれ

ばならない。ただし、共同企業体の場合は、この限りではない。

なお、増員して専任する技術者については、「低入札工事の専任配置技術者選任通知書」を、落札候補者となった時点で契約事務担当者へ提出し、確認を受けなければならない。

また、選任通知書には技術者取得資格証明書又は実務経験証明書を添付するとともに、雇用関係が確認できるもの（健康保険証等）を提示しなければならない。内容を変更しようとする場合は、第1項(1)を準用するものとする。

5. 監理技術者補佐

受注者は、監理技術者を複数の工事現場で兼務させる場合は、主任技術者、監理技術者及び低入札技術者とは別に、監理技術者補佐を専任させなければならない。

なお、監理技術者補佐は、受注者と直接的かつ恒常的な雇用関係にある者で、当該工事に関し建設業法第7条第2号イ、ロ又はハに該当する者のうち一級の技術検定の第一次検定に合格した者又は建設業法第15条第2号イ、ロ又はハに該当する者でなければならない。

また、監理技術者補佐については、「監理技術者補佐選任通知書」を、落札候補者となった時点で契約事務担当者へ、工事途中に監理技術者補佐を設置して当該監理技術者を他工事と兼務させる場合、その変更する日から土曜日、日曜日、祝日等を除き10日以内に監督員へ提出し、確認を受けなければならない。また、選任通知書には技術者取得資格証明書又は実務経験証明書を添付するとともに、雇用関係が確認できるもの（健康保険証等）を提示しなければならない。内容を変更しようとする場合は、第1項(1)を準用するものとする。

6. 技術者等の配置

受注者は、一般競争入札及び条件付一般競争入札（総合評価落札方式）対象工事において、入札前に入札参加資格確認資料として提出した配置予定技術者を、当該工事の技術者として配置しなければならない。

また、現場代理人、主任技術者、監理技術者、監理技術者補佐及び低入札技術者は、死亡、傷病又は退職等真にやむを得ない場合等を除いて変更することはできない。ただし、やむを得ず変更する場合には、当該入札参加条件に適合した者を選任し、再度審査を受けた後、配置しなければならない。

7. 技術者等の兼務

現場代理人及び主任技術者等の兼務条件については別途定める。

1-1-1-16 受注者相互の協力

受注者は、約款第2条の規定に基づき隣接工事又は関連工事の請負業者と相互に協力し、施工しなければならない。

また、他事業者が施工する関連工事が同時に施工される場合にも、これら関係者と相互に協力しなければならない。

1-1-1-17 調査・試験に対する協力

1. 一般事項

受注者は、発注者が自ら又は発注者が指定する第三者が行う調査及び試験に対して、監督員の指示によりこれに協力しなければならない。この場合、発注者は、具体的な内容等を事前に受注者に通知するものとする。

2.公共事業労務費調査

受注者は、当該工事が発注者の実施する公共事業労務費調査の対象工事となった場合には、以下の各号に掲げる協力をしなければならない。また、工事しゅん工後においても同様とする。

- (1) 調査票等に必要事項を正確に記入し、発注者に提出する等必要な協力をしなければならない。
- (2) 調査票等を提出した事業所を発注者が、事後に訪問して行う調査・指導の対象になった場合には、その実施に協力しなければならない。
- (3) 正確な調査票等の提出が行えるよう、労働基準法等に従い就業規則を作成すると共に賃金台帳を調製・保存する等、日頃より使用している現場労働者の賃金時間管理を適切に行なわなければならない。
- (4) 対象工事の一部について下請契約を締結する場合には、当該下請負工事の受注者（当該下請工事の一部に係る二次以降の下請負人を含む。）が前号と同様の義務を負う旨を定めなければならない。

3.諸経費動向調査

受注者は、当該工事が発注者の実施する諸経費動向調査の対象工事となった場合には、調査等の必要な協力をしなければならない。また、工事しゅん工後においても同様とする。

4.施工合理化調査等

受注者は、当該工事が発注者の実施する施工合理化調査等の対象工事となった場合には、調査等の必要な協力をしなければならない。また、工事しゅん工後においても同様とする。

5.低入札価格調査

受注者は、当該工事が低入札工事となり発注者からヒアリング等を求められた場合は、これに応じなければならない。

6.独自の調査・試験を行う場合の処置

受注者は、工事現場において独自の調査・試験等を行う場合、具体的な内容を事前に監督員に説明し、承諾を得なければならない。

また、受注者は、調査・試験等の成果を公表する場合、事前に発注者に説明し、承諾を得なければならない。

1-1-1-18 工事の一時中止

1.一般事項

発注者は、約款第20条の規定に基づき以下の各号に該当する場合には、あらかじめ受注者に対して通知した上で、必要とする期間、工事の全部又は一部の施工について一時中止をさせることができる。

なお、天災等による工事の中断については、1-1-1-50臨機の措置により、受注者は、適切に対応しなければならない。

- (1) 埋蔵文化財の調査、発掘の遅延及び埋蔵文化財が新たに発見され、工事の続行が不適當又は不可能となった場合
- (2) 関連する他の工事の進捗が遅れたため工事の続行を不適當と認めた場合
- (3) 工事着手後、環境問題等の発生により工事の続行が不適當又は不可能となった場合

2.発注者の中止権

発注者は、受注者が契約図書に違反し又は監督員の指示に従わない場合等、監督員が必要と認めた場合には、工事の中止内容を受注者に通知し、工事の全部又は一部の施工について一時中止させることができる。

3.基本計画書の作成

受注者は、前1項及び2項の場合において、施工を一時中止する場合は、中止期間中の維持・管理に関する基本計画書を監督員を通じて発注者に提出し、承諾を得るものとする。また、受注者は工事の再開に備え工事現場を保全しなければならない。

1-1-1-19 設計図書の変更

設計図書の変更とは、入札に際して発注者が示した設計図書を、発注者が指示した内容及び設計変更の対象となることを認めた協議内容に基づき、発注者が修正することをいう。

1-1-1-20 工期変更

1.一般事項

約款第15条第7項、第17条第1項、第18条第5項、第19条、第20条第3項、第22条及び第23条の規定に基づく工期の変更について、約款第24条の工期変更協議の対象であるか否かを監督員と受注者との間で確認する(本条において以下「事前協議」という。)ものとし、監督員はその結果を受注者に通知するものとする。

2.設計図書の変更等

受注者は、約款第18条第5項及び第19条に基づき設計図書の変更又は訂正が行われた場合、第1項に示す事前協議において工期変更協議の対象であると確認された事項について、必要とする変更日数の算出根拠、変更工程表その他必要な資料を添付の上、約款第24条第2項に定める協議開始の日までに工期変更に関して監督員と協議しなければならない。

3.工事の一時中止

受注者は、約款第20条に基づく工事の全部もしくは一部の施工が一時中止となった場合、第1項に示す事前協議において工期変更協議の対象であると確認された事項について、必要とする変更日数の算出根拠、変更工程表その他必要な資料を添付の上、約款第24条第2項に定める協議開始の日までに工期変更に関して監督員と協議しなければならない。

4.工期の延長

受注者は、約款第22条に基づき工期の延長を求める場合、第1項に示す事前協議において工期変更協議の対象であると確認された事項について、必要とする延長日数の算出根拠、変更工程表その他必要な資料を添付の上、約款第24条第2項に定める協議開始の日までに工期変更に関して監督員と協議しなければならない。

5.工期の短縮

受注者は、約款第23条第1項に基づき工期の短縮を求められた場合、可能な短縮日数の算出根拠、変更工程表その他必要な資料を添付し、約款第24条第2項に定める協議開始の日までに工期変更に関して監督員と協議しなければならない。

1-1-1-21 支給材料及び貸与品

1.一般事項

受注者は、支給材料及び貸与品を約款第15条第8項の規定に基づき善良な管理者の注意をもって管理しなければならない。

2.受払状況の記録

受注者は、支給材料及び貸与品の受払状況を記録した帳簿を備え付け、常にその残高を明らかにしておかなければならない。

3.支給品精算書,支給材料精算書

受注者は、工事完成時(完成前に工事工程上、支給材料の精算が可能な場合は、その時点)に、支給品精算書を監督員を通じて発注者に提出しなければならない。

4.引渡場所

約款第15条第1項に規定する「引渡場所」は、設計図書又は監督員の指示によるものとする。

5.返 還

受注者は、約款第15条第9項「不用となった支給材料又は貸与品」の規定に基づき返還する場合、監督員の指示に従うものとする。

なお、受注者は、返還が完了するまで材料の損失に対する責任を免れることはできないものとする。

6.修理等

受注者は、支給材料及び貸与物件の修理等を行う場合、事前に監督員の承諾を得なければならない。

7.流用の禁止

受注者は、支給材料及び貸与物件を他の工事に流用してはならない。

8.所有権

支給材料及び貸与物件の所有権は、受注者が管理する場合でも発注者に属するものとする。

9.貸与機械の使用

受注者は、貸与機械の使用に当たっては、発注者の指示に従わなければならない。

1-1-1-22 工事現場発生品

1.一般事項

受注者は、設計図書に定められた現場発生品について、設計図書又は監督員の指示する場所で監督員に引き渡すとともに、あわせて現場発生品調書を作成し、監督員を通じて発注者に提出しなければならない。

2.設計図書以外の現場発生品の処置

受注者は、第1項以外のものが発生した場合、監督員に連絡し、監督員が引き渡しを指示したのものについては、監督員の指示する場所で監督員に引き渡すとともに、あわせて現場発生品調書を作成し、監督員を通じて発注者に提出しなければならない。

1-1-1-23 建設副産物

1.一般事項

受注者は、掘削により発生した石、砂利、砂その他の材料を工事に用いる場合、設計図書によるものとするが、設計図書に明示がない場合には、本体工事又は設計図書に指定された仮設工事においては、監督員と協議するものとし、設計図書に明示がない任意の仮設工事においては、監督員の承諾を得なければならない。

2. マニフェスト

受注者は、建設副産物が搬出される工事においては、建設発生土は建設発生土搬出調書、産業廃棄物は産業廃棄物管理票(紙マニフェスト)又は受渡確認票(電子マニフェスト)により、適正に処理されていることを確かめるとともに、監督員に建設発生土搬出調書を提出しなければならない。また、産業廃棄物管理票又は受渡確認票の写しを工事しゅん工検査請求書提出時まで監督員に提示しなければならない。

3. 法令等遵守

受注者は、建設副産物適正処理推進要綱(国土交通事務次官通達,平成14年5月30日),再生資源の利用の促進について(建設大臣官房技術審議官通達,平成3年10月25日)(航空局飛行場部建設課長通達,平成4年1月24日),建設汚泥の再生利用に関するガイドライン(国土交通事務次官通達,平成18年6月12日)を遵守して、建設副産物の適正な処理及び再生資源の活用を図らなければならない。

4. 再生資源利用計画

受注者は、資源の有効な利用の促進に関する法律(以下「資源有効利用促進法」という。)に基づく建設業に属する事業を行う者の再生資源の利用に関する判断の基準となるべき事項を定める省令(H3.10.25建設省令第19号)第8条で規定される工事,又は建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律(建設リサイクル法)施行令第2条で規定される工事(以下「一定規模以上の工事」という。)において、コンクリート(二次製品を含む。),土砂,砕石,加熱アスファルト混合物又は木材を工事現場に搬入する場合には、(一財)日本建設情報総合センターの建設副産物情報交換システム(以下「COBRIS」という。)により再生資源利用計画書を作成し、監督員の確認を受けなければならない。

また、受注者は、法令等に基づき、再生資源利用計画を公衆の見やすい場所に掲げなければならない。

5. 再生資源利用促進計画

受注者は、資源有効利用促進法に基づく建設業に属する事業を行う者の指定副産物に係る再生資源の利用の促進に関する判断の基準となるべき事項を定める省令(H3.2.25建設省令第20号)第7条で規定される工事,又は一定規模以上の工事において、建設発生土,コンクリート塊,アスファルト・コンクリート塊,建設発生木材,建設汚泥又は建設混合廃棄物を工事現場から搬出する場合には、COBRISにより再生資源利用促進計画書を作成し、監督員の確認を受けなければならない。

また、受注者は、法令等に基づき、再生資源利用促進計画を公衆の見やすい場所に掲げなければならない。

6. 実施書の提出

受注者は、再生資源利用計画書及び再生資源利用促進計画書を作成した場合には、工事完了後速やかにCOBRISにより再生資源利用実施書及び再生資源利用促進実施書を作成し、監督員に提出しなければならない。

7. COBRISの入力方法

受注者は、COBRISの入力において、資材の供給元及び搬出する副産物の搬出先について、その施設名,施設の種類及び住所を必ず入力しなければならない。ただし、バージン材を使用する生コンクリート及び購入土を除くものとする。

8.舗装版切断に伴い発生する排水の処理等

受注者は、舗装版の切断作業を行う場合、切断機械から発生する排水は、排水吸引機能を有する切断機等により回収し、回収した排水については、廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づき、適正に処理しなければならない。

9.建設リサイクル法通知済証の掲示

受注者は、一定規模以上の工事においては、工事現場の公衆の見やすい場所に工事着手日までに「建設リサイクル法通知済証」を掲示し、工事しゅん工検査が終了するまで存置しておかなければならない。また、「建設リサイクル法通知済証」掲示後の全景の写真是、しゅん工時に他の工事写真とともに提出することとする。なお、「建設リサイクル法通知済証」は契約締結後から工事着手日までの期間に発注者から支給することとする。

1-1-1-24 監督員による確認及び立会等

1.監督員の立会

監督員は、必要に応じ、工事現場又は製作工場において立会し、又は資料の提出を請求できるものとし、受注者はこれに応じなければならない。

2.確認、立会の準備等

受注者は、監督員による確認及び立会に必要な準備、人員及び資機材等の提供並びに写真その他資料の整備をしなければならない。

なお、監督員が製作工場において確認を行う場合、受注者は監督業務に必要な設備等の備わった執務室を提供しなければならない。

3.確認及び立会の時間

監督員による確認及び立会の時間は、監督員の勤務時間内とする。ただし、やむを得ない理由があると監督員が認めた場合はこの限りではない。

4.遵守義務

受注者は、約款第9条第2項第3号、第13条第2項又は第14条第1項若しくは同条第2項の規定に基づき、監督員の立会を受け、材料の確認を受けた場合にあっては、約款第17条及び第32条に規定する義務を免れないものとする。

5.段階確認

段階確認は、次に掲げる各号に基づいて行うものとする。

- (1) 受注者は、表1-1-1段階確認一覧表に示す確認時期及び監督員が指示する施工段階において、段階確認を受けなければならない。
- (2) 受注者は、段階確認に臨場するものとし、監督員が確認した箇所に係わる書面を、工事しゅん工検査請求書提出時まで監督員へ提出しなければならない。
- (3) 受注者は、監督員に完成時不可視になる施工箇所の調査ができるよう十分な機会を提供するものとする。
- (4) 監督員は、設計図書で定めた、又は監督員が指示した段階確認において、臨場を机上とすることができる。この場合において、受注者は、施工管理記録、写真等の資料を整備し、監督員にこれらを提示し、確認を受けなければならない。

表1-1-1 段階確認一覧表

種 別	細 別	確 認 時 期
指定仮設工		設置完了時
河川・河川海岸・砂防土工（掘削工） 道路土工（掘削工）		土（岩）質の変化した時
道路土工（路床盛土工） 舗装工（下層路盤）		ブルーフローリング実施時
表層安定処理工	表層混合処理・路床安定処理	処理完了時
	置換	掘削完了時
	サンドマット	処理完了時
パーチカルドレーン工	サンドドレーン	施工時
	袋詰式サンドドレーン	施工完了時
	ペーバドレーン	
締固め改良工	サンドコンパクションパイル	施工時
		施工完了時
固結工	粉体噴射攪拌	施工時
	高圧噴射攪拌	施工完了時
	セメントミルク攪拌	
	生石灰パイル	
	薬液注入	施工時
矢板工 （任意仮設を除く。）	鋼矢板	打込時
	鋼管矢板	打込完了時
既製杭工	既製コンクリート杭 鋼管杭 H鋼杭	打込時
		現場接合時
		打込完了時（打込杭）
		掘削完了（支持層確認）時（中掘杭）
		先端処理時（中掘杭） 時（中掘杭） 杭頭処理完了時
場所打杭工	リバース杭 オールケーシング杭 アースドリル杭 大口径杭	掘削完了（支持層確認）時
		鉄筋組立完了時
		施工完了時
		杭頭処理完了時
		コンクリート打設時
深礎工		土（岩）質の変化した時
		掘削完了時
		鉄筋組立完了時
		施工完了時
		グラウト注入時 コンクリート打設時
オープンケーソン基礎工 ニューマチックケーソン基礎工		鉄杵据え付け完了時
		本体設置前（オープンケーソン）
		掘削完了時（ニューマチックケーソン）
		土（岩）質の変化した時 鉄筋組立完了時 コンクリート打設時
鋼管矢板基礎工		打込時
		打込完了時
		杭頭処理完了時

種 別	細 別	確 認 時 期
置換工(重要構造物)		掘削完了時
築堤・護岸工		法線設置完了時
砂防堰堤		法線設置完了時
護岸工	法覆工(覆土施工がある場合)	覆土前
	基礎工・根固工	設置完了時
重要構造物 函渠工(樋門・樋管含む) 躯体工(橋台) R C躯体工(橋脚) 橋脚フーチング工 R C擁壁 砂防堰堤 堰本体工 排水機場本体工 水門工 共同溝本体工		土(岩)質の変化した時 床掘削完了時 鉄筋組立完了時 埋戻し前 コンクリート打設時
躯体工 R C躯体工		杓座の位置決定時
床版工		鉄筋組立完了時 コンクリート打設時
鋼橋		仮組立完了時(仮組立が省略となる場合を除く。)
ポストテンションT(I)桁製作工 プレビーム桁製作工 プレキャストブロック桁組立工 P Cホロースラブ製作工 P C版桁製作工 P C箱桁製作工 P C片持箱桁製作工 P C押出し箱桁製作工 床版・横組工		プレストレスト導入完了時 横締め作業完了時 プレストレスト導入完了時 縦締め作業完了時 P C鋼線・鉄筋組立完了時(工場製作除く。) コンクリート打設時(工場製作除く。)
トンネル掘削工		土(岩)質の変化した時
トンネル支保工		施工時(支保工変化ごと) 支保工完了時(支保工変化ごと)
トンネル覆工		コンクリート打設前 コンクリート打設後
トンネルインパート工		鉄筋組立完了時 コンクリート打設時
鋼板巻立て工	フーチング定着アンカー穿孔工	フーチング定着アンカー穿孔完了時
	鋼板取付け工, 固定アンカー工	鋼板建込み固定アンカー完了時
	現場溶接工	溶接前 溶接完了時
	現場塗装工	塗装前 塗装完了時
塗装工		清掃・さび落とし施工時 施工時
樹木・芝生管理工, 植生工	施肥, 薬剤散布	施工時
ダム工	各工事ごと別途定める	

1-1-1-25 数量の算出

1.一般事項

受注者は、出来形数量を算出するために出来形測量を実施しなければならない。

2.出来形数量の提出

受注者は、出来形測量の結果を基に、土木工事数量算出要領及び設計図書に従って、出来形数量を算出し、その結果を監督員からの請求があった場合は速やかに提示するとともに、工事しゅん工検査請求書提出時まで監督員に提出しなければならない。出来形測量の結果が、設計図書の寸法に対し、美馬市が準用する徳島県土木工事施工管理基準を満たしていれば、出来形数量は設計数量とする。

なお、設計数量とは、設計図書に示された数量及びそれを基に算出された数量をいう。

1-1-1-26 工事完成図

受注者は、設計図書に従って工事完成図を作成し、監督員に提出しなければならない。ただし、各種ブロック製作工等工事目的物によっては、監督員の承諾を得て工事完成図を省略することができる。

1-1-1-27 工事完成図書等の納品

1.工事完成図書の納品

(1) 受注者は、約款、共通仕様書等に規定する書類(土木工事主要提出書類チェックリストを参考)を監督員に提出しなければならない。なお、様式が定められていないものは、監督員の指示によらなければならない。

また、工事打合せ簿、休日・夜間作業届、工事履行報告書、工事実績データ、再生資源利用実施書、再生資源利用促進実施書、については電子メール等でも提出できるものとする。

(2) 受注者は、橋りょうの新設、改良、修繕工事にあつては、別に定める様式により、橋梁台帳を作成し、監督員に提出しなければならない。

3.電子納品

美馬市発注工事では適用していない。

1-1-1-28 しゅん工検査

1.工事しゅん工検査請求書の提出

受注者は、約款第32条の規定に基づき、工事しゅん工検査請求書及び検査に必要な書類を監督員に提出しなければならない。

2.しゅん工検査の要件

受注者は、工事しゅん工検査請求書を監督員に提出する際には、以下の各号に掲げる要件をすべて満たさなくてはならない。なお、工事の完成を監督員が確認するまで、工事しゅん工検査請求書を提出することができない。

(1) 設計図書(追加、変更指示も含む。)に示されるすべての工事が完成していること。

(2) 約款第17条第1項の規定に基づき、監督員の請求した改造が完了していること。

(3) 設計図書により義務付けられた工事記録写真、出来形管理資料等の資料の整備がすべて完了していること。なお、整備の完了とは、受注者から監督員に提出された資料について、監督員の確認が完了していることである。

(4) 契約変更を行う必要が生じた工事においては、最終変更契約を発注者と締結していること。

3.検査日の連絡

発注者は、工事しゅん工検査に先立って、監督員を通じて受注者に対して検査日を連絡するものとする。

4.検査内容

検査員は、監督員及び受注者の臨場の上、工事目的物を対象として契約図書と対比し、以下の各号に掲げる検査を行うものとする。なお、工事しゅん工検査は、既に行った部分払検査及び中間検査に係る部分並びに監督員が指示した事項のすべてについて行うものとする。

- (1) 工事の出来形について、形状、寸法、精度、数量、品質及び出来ばえの検査
- (2) 工事管理状況に関する書類、記録及び写真等を参考にして行う検査

5.修補の指示

検査員は、修補の必要があると認めた場合には、受注者に対して、期限を定めて修補の指示を行うことができるものとする。

6.検査対応

受注者は、美馬市工事検査基準に基づく軽微な破壊検査が行えるよう準備しなければならない。この場合において、検査における掘削、破壊、削孔、抜き取り等の箇所は、検査後、直ちに復旧しなければならない。

7.適用規定

受注者は、当該工事しゅん工検査については、第1編1-1-1-24第2項の規定を準用する。

1-1-1-29 部分払検査等

1.一般事項

受注者は、約款第38条第2項の部分払の確認の請求を行った場合、又は、約款第39条第1項の指定部分の工事の完成の通知を行った場合は、既済部分に係わる検査を受けなければならない。

2.部分払いの請求

受注者は、約款第38条に基づく部分払いの請求を行うときは、前項の検査を受ける前に工事の出来高に関する資料を作成し、監督員に提出しなければならない。

3.検査内容

検査員は、監督員及び受注者の臨場の上、工事目的物を対象として工事の出来高に関する資料と対比し、以下の各号に掲げる検査を行うものとする。

- (1) 工事の出来形について、形状、寸法、精度、数量、品質及び出来ばえの検査
- (2) 工事管理状況について、書類、記録及び写真等を参考にして検査

4.修補

受注者は、検査員の指示による修補については、第1編1-1-1-28第5項の規定に従うものとする。

5.適用規定

受注者は、当該部分払検査については、第1編1-1-1-24第2項の規定を準用する。

6.検査日の連絡

発注者は、部分払検査に先立って、監督員を通じて受注者に対して検査日を連絡するものとする。

7.中間前払金の請求

受注者は、約款第35条に基づく中間前払金の請求を行うときは、公共工事の中間前払事務取扱要領に基づき中間前金払認定請求書及び工事履行報告書を作成し、当該中間前払金に関する保証契約に係る保証証書を添えて、契約事務担当者に提出しなければならない。

1-1-1-30 中間検査

1.一般事項

受注者は、美馬市工事検査規程に基づく、中間検査を受けなければならない。

2.検査内容

検査員は、監督員及び受注者の臨場の上、工事目的物を対象として設計図書と対比し、次の各号に掲げる検査を行うものとする。

- (1) 工事の出来形について、形状、寸法、精度、数量、品質及び出来ばえの検査
- (2) 工事管理状況について、書類、記録、写真等を参考にして行う検査

3.修補

受注者は、検査員の指示による修補については、第1編1-1-1-28第5項の規定に従うものとする。

4.適用規定

受注者は、当該中間検査については、第1編1-1-1-24第2項の規定を準用する。

5.検査日の連絡

発注者は、中間検査に先立って、監督員を通じて受注者に対して検査日を連絡するものとする。

1-1-1-31 部分使用

1.一般事項

発注者は、受注者の同意を得て部分使用できるものとする。

2.監督員による検査

受注者は、発注者が約款第34条の規定に基づく当該工事に係わる部分使用を行う場合には、中間検査又は監督員による品質及び出来形等の検査(確認を含む。)を受けるものとする。

1-1-1-32 施工管理

1.一般事項

受注者は、工事の施工にあたっては、品質及び出来形が設計図書に適合するよう、十分な施工管理をしなければならない。

2.施工管理頻度、密度の変更

監督員は、以下に掲げる場合、設計図書に示す品質管理の測定頻度及び出来形管理の測定密度を変更することができる。この場合、受注者は、監督員の指示に従うものとする。これに伴う費用は、受注者の負担とするものとする。

- (1) 工事の初期で作業が定常的になっていない場合
- (2) 管理試験結果が限界値に異常接近した場合
- (3) 試験の結果、品質及び出来形に均一性を欠いた場合

(4)前各号に掲げるもののほか、監督員が必要と判断した場合

3.標示板の設置

受注者は、施工に先立ち工事現場又はその周辺の一般通行人等が見易い場所に、工事名、工期、発注者名、受注者名、連絡先、電話番号等を記載した標識板(工事看板)を設置し、工事しゅん工検査が終了するまで存置しておくとともに、工事しゅん工検査終了後は速やかに標識板を撤去しなければならない。ただし、標識板の設置が困難な場合は、監督員と協議し、しかるべき処置を講じなければならない。

4.整理整頓

受注者は、工事期間中、現場内及び周辺の整理整頓に努めなければならない。

5.周辺への影響防止

受注者は、施工に際し、施工現場周辺並びに他の構造物及び施設などへ影響を及ぼさないよう施工しなければならない。

なお、影響が生じた場合には直ちに監督員へ連絡し、その対応方法等に関して監督と速やかに協議しなければならない。また、損傷が受注者の過失によるものと認められる場合、受注者自らの負担で原形に復元しなければならない。

6.労働環境の改善

受注者は、作業員の労働条件、安全衛生その他の労働環境の改善に努めなければならない。また、作業員が健全な身体と精神を保持できるよう作業場所、現場事務所及び作業員宿舎等における良好な作業環境の確保に努めなければならない。

7.発見・拾得物の処置

受注者は、工事中に物件を発見又は拾得した場合、直ちに関係機関へ通報するとともに、監督員へ連絡しその対応について指示を受けるものとする。

8.記録及び関係書類

受注者は、徳島県土木工事施工管理基準を準用することにより施工管理を行い、その記録及び関係書類を作成、保管し、工事完成時に監督員へ提出しなければならない。ただし、それ以外で監督員からの請求があった場合は提示しなければならない。

なお、徳島県土木工事施工管理基準に定められていない工種又は項目については、監督員と協議の上、施工管理を行うものとする。

9.検査困難箇所等の施工管理

受注者は、水中又は地下に埋設される部分、その他工事完成後外面から検査し又は確認することができなくなる部分及び重要な箇所の工事の施工をした場合は、出来形寸法、品質及び工事の施工状況を確認できる写真その他資料を作成し、監督員の請求があったときは提示するとともに、工事完成時にこれらを提出しなければならない。

10.賃金水準確保等に関するポスター掲示

受注者は、監督員から渡される技能労働者への適切な賃金水準の確保等に関するポスター(A3)を工事関係者が見やすい場所に掲げるとともに、掲示状況について工事写真として提出しなければならない。ただし、次のいずれかに該当する工事は対象外とする。

(1)区画線工事、舗装工事、標識設置工事、照明灯工事

(2)当初請負代金額が200万円未満の工事

1-1-1-33 履行報告

受注者は、監督員が特に指示した場合は、約款第11条の規定に基づき、工事履行報告書を毎月作成し、原則として履行月の翌月10日までに監督員に提出しなければならない。なお、工事履行報告書には進捗状況が分かるもの(写真等)を添付しなければならない。

1-1-1-34 工事関係者に対する措置請求

1.現場代理人に対する措置

発注者は、現場代理人が工事目的物の品質・出来形の確保及び工期の遵守に関して、著しく不相当と認められるものがあるときは、受注者に対して、その理由を明示した書面により、必要な措置をとるべきことを請求することができる。

2.技術者に対する措置

発注者又は監督員は、主任技術者(監理技術者)、監理技術者補佐、専門技術者(これらの者と現場代理人を兼務する者を除く。)が工事目的物の品質・出来形の確保及び工期の遵守に関して、著しく不相当と認められるものがあるときは、受注者に対して、その理由を明示した書面により、必要な措置をとるべきことを請求することができる。

1-1-1-35 工事中の安全確保

1.安全指針等の遵守

受注者は、土木工事安全施工技術指針(国土交通大臣官房技術審議官、令和4年2月18日)、建設機械施工安全技術指針(国土交通省大臣官房技術調査課長、国土交通省総合政策局建設施工企画課長通達、平成17年3月31日)、「潜水作業安全施工指針(社)日本潜水協会」及びJIS A 8972(斜面・法面工事に用いられる仮設設備)を参考にして、常に工事の安全に留意して現場管理を行い、災害の防止を図らなければならない。ただし、これらの指針は当該工事の契約条項を超えて受注者を拘束するものではない。

2.支障行為等の防止

受注者は、工事施工中、監督員及び管理者の許可なくして、流水及び水陸交通の支障となるような行為、又は公衆に支障を及ぼすなどの施工をしてはならない。

3.建設工事公衆災害防止対策要綱の遵守

受注者は、建設工事公衆災害防止対策要綱「国土交通省告示第496号」を遵守して災害の防止を図らなければならない。

4.使用する建設機械

受注者は、工事に使用する建設機械の選定、使用等について、設計図書により建設機械が指定されている場合は、これに適合した建設機械を使用しなければならない。ただし、より条件に合った機械がある場合には、監督員の承諾を得て、それを使用することができる。

5.上空施設への接触事故防止対策

受注者は、架空線等上空施設の位置及び占用者を把握するため、工事現場、土取り場、建設発生土受入地、資材等置き場等、工事に係わる全ての架空線等上空施設の現地調査(場所、種類、高さ等)を行わなければならない。

6.輸送経路等の上空施設への接触事故防止対策

受注者は、輸送経路等において上空施設への接触事故を防止するため、重機回送時の高さ、移動式クレーンのブームの格納、ダンプトラックの荷台の下ろし等について、走行前に複数の作業員により確認しなければならない。

7.トラック(クレーン装置付)における上空施設への接触事故防止装置の使用

受注者は、トラック(クレーン装置付)を使用する場合は、上空施設への接触事故防止装置(ブームの格納忘れを防止(警報)する装置、ブームの高さを制限する装置)付きの車両を原則使用しなければならない。ただし、監督員との協議により、接触事故防止装置付きを使用できないことが認められた場合は、この限りでない。

8.地下埋設物の調査及び確認

受注者は、工事施工箇所の地下埋設物の位置、深さ等を調査し、その調査結果について、支障物件の有無に関わらず、工事着手前に監督員へ報告しなければならない。また、地下埋設物への影響が予想される場所では、施工に先立ち、地下埋設物の管理者等が保管する台帳等に基づいて、原則として地下埋設物の管理者立会により試掘を行い、当該埋設物の種類、位置(平面・深さ)、規格、構造等を確認しなければならない。

9.周辺への支障防止

受注者は、工事箇所及びその周辺にある地上地下の既設構造物に対して支障が存在する場合は、当該物件及びその位置と作業内容を監督員に報告しなければならない。また、当該支障物件に対して支障を及ぼさないよう必要な措置を施さなければならない。

10.不明の地下埋設物の処置

受注者は、施工中、管理者不明の地下埋設物を発見した場合は、監督員に連絡し、その処置について、占有者全体の立会を求め、管理者を明確にしなければならない。

11.地下埋設物件等損害時の措置

受注者は、地下埋設物件等に損害を与えた場合は、直ちに関係機関に通報及び監督員に連絡し、応急処置をとり、補修しなければならない。

12.防災体制

受注者は、豪雨、出水、土石流、その他天災に対しては、天気予報などに注意を払い、常に災害を最小限に食い止めるため防災体制を確立しておかなければならない。

13.第三者の立入り禁止措置

受注者は、工事現場付近における事故防止のため一般の立入りを禁止する場合、その区域に、柵、門扉、立入禁止の標示板等を設けなければならない。

14.安全巡視

受注者は、工事期間中、安全巡視を行い、工事区域及びその周辺の安全を確保しなければならない。

15.イメージアップ

受注者は、工事現場のイメージアップを図るため、現場事務所、作業員宿舍、休憩所又は作業環境等の改善を行い、快適な職場を形成するとともに、地域との積極的なコミュニケーション及び現場周辺の美装化に努めるものとする。

16.定期安全研修・訓練等

受注者は、工事着手後、作業員全員の参加により月当たり、半日以上の時間を割当て、以下の各号から実施する内容を選択し、定期的に安全に関する研修・訓練等を実施しなければならない。

- (1)安全活動のビデオ等視覚資料による安全教育
- (2)当該工事内容等の周知徹底

- (3) 工事安全に関する法令, 通達, 指針等の周知徹底
- (4) 当該工事における災害対策訓練
- (5) 当該工事現場で予想される事故対策
- (6) その他, 安全・訓練等として必要な事項

17. 安全教育・訓練等の実施計画

受注者は, 工事着手前に工事の内容に応じた安全教育及び安全訓練等の具体的な実施計画を作成しなければならない。また, 施工計画書を提出する工事又は監督員が特に指示する場合には, 監督員に提出しなければならない。

18. 安全教育・訓練等の記録

受注者は, 安全教育及び安全訓練等の実施状況について, ビデオ等又は工事報告等に記録した資料を整備し, 工事しゅん工検査請求書提出時まで監督員に提出しなければならない。

19. 関係機関との連絡

受注者は, 所轄警察署, 所管海上保安部, 道路管理者, 鉄道事業者, 河川管理者, 労働基準監督署等の関係者及び関係機関と緊密な連絡を取り, 工事中の安全を確保しなければならない。

20. 工事関係者の連絡会議

受注者は, 工事現場が隣接し又は同一場所において別途工事がある場合は, 請負業者間の安全施工に関する緊密な情報交換を行うとともに, 非常時における臨機の措置を定める等の連絡調整を行うため, 関係者による工事関係者連絡会議を組織するものとする。

21. 安全衛生協議会の設置

監督員が, 労働安全衛生法第30条第1項に規定する措置を講じるものとして, 同条第2項の規定に基づき, 受注者を指名した場合には, 受注者はこれに従うものとする。

22. 安全優先

受注者は, 工事中における安全の確保をすべてに優先させ, 労働安全衛生法等関連法令に基づく措置を常に講じておくものとする。特に重機械の運転, 電気設備等については, 関係法令に基づいて適切な措置を講じておかなければならない。

23. 災害発生時の応急処置

災害発生時においては, 第三者及び作業員等の人命の安全確保をすべてに優先させるものとし, 応急処置を講じるとともに, 直ちに関係機関に通報及び監督員に連絡しなければならない。

24. 施工計画の立案

受注者は, 施工計画の立案に当たっては, 既往の気象記録及び洪水記録並びに地形等現地の状況を勘案し, 防災対策を考慮の上, 施工方法及び施工時期を決定しなければならない。特に梅雨, 台風等の出水期の施工に当たっては, 工法及び工程について十分配慮しなければならない。

25. 盗難防止

受注者は, 第14項に規定する安全巡視の際, 工事現場における盗難防止の観点から, 資機材の保管状況等についても併せて確認しなければならない。

なお, 監督員から「資機材保管計画書」(自由様式)の提出を求められた場合は, 速や

かに提出しなければならない。

26.足場の設置

受注者は、足場を設置する場合は、手すり先行工法に関するガイドライン(平成21年厚生労働省労働基準局長通達)によるものとし、足場の組立、解体、又は変更の作業時及び使用時には、常時、全ての作業床において、二段手すり及び幅木の機能を有するものを設置しなければならない。

また、つり足場(ゴンドラのつり足場を除く。)、張出し足場又は高さが2m以上の構造の足場の組立、解体、又は変更の作業において、材料、木具、工具等を上げ、又はおろすときは、つり網、つり袋等を労働者に使用させなければならない。

27.工事車両運転手への教育

受注者は、工事用車両による土砂、工事資材、機械等の輸送を伴う場合は、新規に入場した運転手が作業に従事する前に、第1編1-1-1-41第2項の規定による輸送経路等の安全輸送上の事項を含めた安全教育を実施しなければならない。

なお、監督員から安全教育の資料の提出を求められたときは、速やかに提出しなければならない。

28.法面作業

受注者は、墜落のおそれのある法面での作業等では、原則として現場従事者を3名以上配置するものとし、常に高所作業者の作業状況に留意し、安全を確認するよう努めなければならない。

29.荷役作業

受注者は、重量が100kg以上のものを貨物自動車に積み込む作業(ロープ掛けの作業及びシート掛けの作業を含む。)又は貨物自動車から卸す作業(ロープ解きの作業及びシート外しの作業を含む。)を行うときは、当該作業を指揮する者を定め、監督員に報告しなければならない。

30.機械の搬入、搬出

受注者は、機械等を貨物自動車に積み込む作業又は貨物自動車から卸す作業を行う場合は、当該作業を指揮する者を定め、指揮者の合図等により行わなければならない。

また、作業状況について、写真等の資料を整備及び保管し、監督員の請求があったときは、直ちに提示しなければならない。

31.舗装工事途中における交通開放

受注者は、舗装工事途中に工事区間を一般交通に供する場合は、工事により生じた路面の段差について、交通の開放前に次のいずれかの措置を講じなければならない。

- 路面の段差に緩やかにすりつけを行う。
- バリケード等を連続的に設置し、歩行者及び自転車を含めた一般通行の路面の段差への進入防止措置を行う。

1-1-1-36 爆発及び火災の防止

1.火薬類の使用

受注者は、火薬類の使用については、以下の規定によらなければならない。

- (1) 発破作業に使用する火薬類等の危険物を備蓄し、使用する必要がある場合、火薬類取締法等関係法令を遵守しなければならない。また、関係官公庁の指導に従い、爆発等の防止の措置を講じるものとする。なお、監督員の請求があった場合には、直ちに従

事する火薬類取扱保安責任者の火薬類保安手帳及び従事者手帳を提示しなければならない。

(2)火薬類を使用し、工事を施工する場合は、使用に先立ち監督員に使用計画書を提出しなければならない。

(3)現地に火薬庫等を設置する場合は、火薬類の盗難防止のための立入防止柵、警報装置等を設置し、保管管理に万全の措置を講ずるとともに、夜間においても、周辺の監視等を行い安全を確保しなければならない。

2.火気の使用

受注者は、火気の使用については、以下の規定によらなければならない。

(1)火気の使用を行う場合は、工事中の火災予防のため、その火気の使用場所及び日時、消火設備等を事前に監督員に提出しなければならない。

(2)喫煙等の場所を指定し、指定場所以外での火気の使用を禁止しなければならない。

(3)ガソリン、塗料等の可燃物の周辺に火気の使用を禁止する旨の表示を行い、周辺の整理に努めなければならない。

(4)伐開除根、掘削等により発生した雑木、草等を野焼きしてはならない。

1-1-1-37 後片付け

受注者は、工事の全部又は一部の完成に際して、一切の受注者の機器、余剰資材、残骸及び各種の仮設物を片付けかつ撤去するとともに、現場及び工事にかかる部分を清掃し、整然とした状態にしなければならない。ただし、設計図書において存置するとしたものを除く。また、工事検査に必要な足場、はしご等は、監督員の指示に従って存置し、検査終了後に撤去しなければならない。

1-1-1-38 事故報告書

受注者は、工事の施工中に事故が発生した場合には、直ちに監督員に連絡するとともに、監督員が指示する期日までに、事故報告書を提出しなければならない。

1-1-1-39 環境対策

1.環境保全

受注者は、建設工事に伴う騒音振動対策技術指針(建設大臣官房技術参事官通達、昭和62年3月30日改正)、関連法令並びに仕様書の規定を遵守の上、騒音、振動、大気汚染、水質汚濁等の問題については、施工計画及び工事の実施の各段階において十分に検討し、周辺地域の環境保全に努めなければならない。

2.苦情対応

受注者は、環境への影響が予知され又は発生した場合は、直ちに応急措置を講じ監督員に連絡しなければならない。また、第三者からの環境問題に関する苦情に対しては、誠意をもってその対応にあたり、その交渉等の内容は、後日紛争とならないよう文書で取り交わす等明確にしておくとともに、状況を随時監督員に報告しなければならない。

3.注意義務

受注者は、工事の施工に伴い地盤沈下、地下水の断絶等の理由により第三者への損害が生じた場合には、受注者が善良な管理者の注意義務を果たし、その損害が避け得なかったか否かの判断をするための資料を監督員に提出しなければならない。

4.廃油等の適切な措置

受注者は、工事に使用する作業船等から発生した廃油等については、適切な措置をとらなければならない。

5.水中への落下防止措置

受注者は、水中に工事用資材等が落下しないよう措置を講じるものとする。また、工事の廃材、残材等を海中に投棄してはならない。

なお、落下物が生じた場合は、受注者は自らの負担で撤去し、処理しなければならない。

6.排出ガス対策型建設機械

(1)一般工事用建設機械

受注者は、工事の施工にあたり表1-1-2に示す建設機械を使用する場合は、「特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する法律」に基づく技術基準に適合する特定特殊自動車、又は、「排出ガス対策型建設機械指定要領(平成3年10月8日付建設省経機発第249号)」、「排出ガス対策型建設機械の普及促進に関する規程(平成18年3月17日付国土交通省告示第348号)」若しくは「第3次排出ガス対策型建設機械指定要領(平成18年3月17日付国総施第215号)」に基づき指定された排出ガス対策型建設機械(以下「排出ガス対策型建設機械等」という。)を使用しなければならない。

排出ガス対策型建設機械等を使用できないことを監督員が認めた場合は、平成7年度建設技術評価制度公募課題「建設機械の排出ガス浄化装置の開発」又はこれと同等の開発目標で実施された民間開発建設技術の技術審査・証明事業若しくは建設技術審査証明事業により評価された排出ガス浄化装置を装着した建設機械を使用することができるが、これにより難しい場合は、監督員と協議するものとする。

(2)トンネル工事用建設機械

受注者は、トンネル坑内作業において表1-1-3に示す建設機械を使用する場合は、2011年以降の排出ガス基準に適合するものとして「特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する法律施行規則」(平成18年3月28日経済産業省・国土交通省・環境省令第1号)第16条第1項第2号若しくは第20条第1項第2号に定める表示が付された特定特殊自動車、又は「排出ガス対策型建設機械指定要領(平成3年10月8日付建設省経機発第249号)」若しくは「第3次排出ガス対策型建設機械指定要領(平成18年3月17日付国総施第215号)」に基づき指定されたトンネル工事用排出ガス対策型建設機械(以下「トンネル工事用排出ガス対策型建設機械等」という。)を使用しなければならない。

トンネル工事用排出ガス対策型建設機械等を使用できないことを監督員が認めた場合は、平成7年度建設技術評価制度公募課題「建設機械の排出ガス浄化装置の開発」又はこれと同等の開発目標で実施された民間開発建設技術の技術審査・証明事業若しくは建設技術審査証明事業により評価された排出ガス浄化装置(黒煙浄化装置付)を装着した建設機械を使用することができるが、これにより難しい場合は、監督員と協議するものとする。

表1-1-2 一般工事用建設機械

機 種	備 考
<ul style="list-style-type: none"> ・バックホウ ・ホイールローダ（トラクタショベル（車輪式）） ・ブルドーザ ・発動発電機（可搬式） ・空気圧縮機（可搬式） ・油圧ユニット（以下に示す基礎工事用機械のうち、ベースマシンとは別に、独立したディーゼルエンジン駆動の油圧ユニットを搭載しているもの；油圧ハンマ、パイプロハンマ、油圧式鋼管圧入・引抜機、油圧式杭圧入・引抜機、アースオーガ、オールケーシング掘削機、リバーサーキュレーションドリル、アースドリル、地下連続壁施工機、全回転型オールケーシング掘削機） ・ロードローラ、タイヤローラ、振動ローラ ・ラフテレーンクレーン（ホイールクレーン） 	<p>ディーゼルエンジン（エンジン出力7.5kW以上260kW以下）を搭載した建設機械に限る。</p> <p>ただし、道路運送車両の保安基準に排出ガス基準が定められている自動車で、有効な自動車検査証の交付を受けているものは除く。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・オフロード法の基準適合表示が付されているもの又は特定特殊自動車確認証の交付を受けているもの ・排出ガス対策型建設機械として指定を受けたもの 	

表1-1-3 トンネル工事用建設機械

機 種	備 考
<ul style="list-style-type: none"> ・バックホウ ・ホイールローダ（トラクタショベル） ・大型ブレーカ ・コンクリート吹付機 ・ドリルジャンボ ・ダンプトラック ・トラックミキサ 	<p>ディーゼルエンジン（エンジン出力30kW以上260kW以下）を搭載した建設機械に限る。</p> <p>ただし、道路運送車両の保安基準に排出ガス基準が定められている大型特殊自動車及び小型特殊自動車以外の自動車の種別で、有効な自動車検査証の交付を受けているものは除く。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・オフロード法の2011年基準適合表示又は2011年基準同等適合表示が付されているもの ・トンネル工事用排出ガス対策建設機械として指定を受けたもの 	

7. 特定特殊自動車の燃料

受注者は、軽油を燃料とする特定特殊自動車の使用にあたって、燃料を購入して使用するときは、当該特定特殊自動車の製作等に関する事業者又は団体が推奨する軽油（ガソリンスタンド等で販売されている軽油をいう。）を選択しなければならない。また、監督員から特定特殊自動車に使用した燃料の購入伝票を求められた場合、提示しなければならない。

なお、軽油を燃料とする特定特殊自動車の使用にあたっては、下請負者等に関係法令等を遵守させるものとする。

8. 低騒音型・低振動型建設機械

受注者は、低騒音型・低振動型建設機械の使用を設計図書で義務付けられている場合には、低騒音型・低振動型建設機械の指定に関する規定（国土交通省告示、平成13年4

月9日改正)に基づき指定された建設機械を使用しなければならない。ただし、施工時期・現場条件等により一部機種の調達が不可能な場合は、認定機種と同程度と認められる機種又は対策をもって協議することができる。

なお、騒音振動対策は、建設工事に伴う騒音振動対策技術指針(建設大臣官房技術参事官通達,昭和62年3月30日改正)に従って実施するとともに、騒音規制法,徳島県生活環境保全条例等の関係法令を遵守しなければならない。

9.環境物品等の使用

受注者は、資材,工法,建設機械又は目的物の使用にあたっては、国等による環境物品等の調達等の推進に関する法律第10条の規定に基づく「徳島県グリーン調達等推進方針」で定める重点調達品目及び「徳島県リサイクル認定制度」に基づく徳島県認定リサイクル製品の使用を積極的に推進するものとする。なお、重点調達品目を使用する場合には、原則として、判断の基準を満たすものを使用するものとする。ただし、事業ごとの特性,必要とされる強度や耐久性,機能の確保,コスト等の影響により、これにより難しい場合は、監督員と協議するものとする。

1-1-1-40 文化財の保護

1.一般事項

受注者は、工事の施工に当たって文化財の保護に十分注意し、使用人等に文化財の重要性を十分認識させなければならない。

なお、工事中に文化財を発見したときは直ちに工事を中止し、設計図書に関して監督員に協議しなければならない。

2.文化財等発見時の処置

受注者が、工事の施工に当たり、文化財その他の埋蔵物を発見した場合は、発注者との契約に係る工事に起因するものとみなし、発注者が、当該埋蔵物の発見者としての権利を保有するものである。

1-1-1-41 交通安全管理

1.一般事項

受注者は、工事用運搬路として、公衆に供する道路を使用する時は、積載物の落下等により、路面を損傷し、あるいは汚損することのないようにするとともに、特に第三者に工事公害による損害を与えないようにしなければならない。

なお、第三者に工事公害による損害を及ぼした場合は、約款第29条によって処置するものとする。

2.輸送災害の防止

受注者は、工事用車両による土砂,工事用資材及び機械などの輸送を伴う工事については、関係機関と打合せを行い、交通安全に関する担当者,輸送経路,輸送期間,輸送方法,輸送担当者,交通誘導警備員の配置,標識,安全施設等の設置場所,その他安全輸送上の事項について計画を立て、災害の防止を図らなければならない。特に、輸送経路にある既設構造物に対して損害を与えるおそれがある場合は、当該物件及びその位置と必要な措置について工事着手前に監督員に報告しなければならない。

3.交通安全等輸送計画

受注者は、ダンプトラック等の大型輸送機械で大量の土砂,工事用資材等の輸送を伴う工事は、事前に関係機関と協議の上、交通安全等輸送に関する必要な事項の計画を

立て、書面により監督員に提出しなければならない。

4.交通安全法令の遵守

受注者は、供用中の公共道路に係る工事の施工にあたっては、交通の安全について、監督員、道路管理者及び所轄警察署と打合せを行うとともに、道路標識、区画線及び道路標示に関する命令(平成26年5月26日改正内閣府・国土交通省令第1号)、道路工事現場における標示施設等の設置基準(建設省道路局長通知,昭和37年8月30日)、道路工事現場における表示施設等の設置基準の一部改正について(局長通知平成18年3月31日国道利37号・国道国防第205号)、道路工事現場における工事情報板及び工事説明看板の設置について(国土交通省道路局路政課長,国道・防災課長通知平成18年3月31日国道利38号・国道国防第206号)及び道路工事保安施設設置基準(案)(建設省道路局国道第一課通知昭和47年2月)に基づき、安全対策を講じなければならない。

5.工事中道路使用の責任

受注者は、設計図書において指定された工事中道路を使用する場合は、設計図書の定めに従い、工事中道路の維持管理及び補修を行うものとする。また、使用開始前に当該道路の維持管理、補修、使用方法等の計画を監督員に提出しなければならない。この場合において、関係機関に所要の手続きをとるものとし、発注者が特に指示する場合を除き、標識の設置その他必要な措置を講じなければならない。

発注者が工事中道路に指定するもの以外の工事中道路は、受注者の責任において使用するものとする。

6.工事中道路共用時の処置

受注者は、他の受注者と工事中道路を共用する定めがある場合においては、関連する受注者と緊密に打合せ、相互の責任区分を明らかにして使用するものとする。

7.公衆交通の確保

公衆の交通が自由かつ安全に通行するのに支障となる場所に材料又は設備を保管してはならない。受注者は、毎日の作業終了時及び何らかの理由により建設作業を中断する時には、交通管理者協議で許可された常設作業帯内を除き一般の交通に使用される路面からすべての設備その他の障害物を撤去しなくてはならない。

8.水上輸送

工事の性質上、受注者が、水上輸送によることを必要とする場合には本条の「道路」は、水門又は水路に関するその他の構造物と読み替え、「車両」は船舶と読み替えるものとする。

9.作業区域の標示等

受注者は、工事の施工にあたっては、作業区域の標示及び関係者への周知など、必要な安全対策を講じなければならない。また、作業船等が船舶の輻輳している区域を航行又はえい航する場合は、見張りを強化する等、事故の防止に努めなければならない。

10.水中落下支障物の処置

受注者は、船舶の航行又は漁業の操業に支障をきたす恐れのある物体を水中に落とした場合は、直ちに、その物体を取り除かなければならない。なお、直ちに取り除けない場合は、標識を設置して危険箇所を明示し、関係機関に通報及び監督員へ連絡しなければならない。

11.作業船舶機械故障時の処理

受注者は、作業船舶機械が故障した場合は、安全の確保に必要な措置を講じなければならない。なお、故障により二次災害を招くおそれがある場合は、直ちに応急の措置を講じ、関係機関に通報及び監督員へ連絡しなければならない。

12. 通行許可

受注者は、建設機械、資材等の運搬に当たり、車両制限令第3条における一般的制限値を超える車両を通行させるときは、道路法第47条の2に基づく通行許可を得ていることを確認しなければならない。また、道路交通法施行令第22条における制限を超えて建設機械、資材等を積載して運搬するとき、道路交通法第57条に基づく許可を得ていることを確認しなければならない。

表1-1-4 一般的制限値

車両の諸元	一般的制限値
幅	2.5m
長さ	12.0m
高さ	3.8m (ただし、指定道路については4.1m)
重量 総重量	20.0 t (ただし、高速自動車国道・指定道路については、軸距・長さに応じ最大25.0 t)
軸重	10.0 t
隣接軸重の合計	隣り合う車軸に係る軸距1.8m未満の場合は18 t (隣り合う車軸に係る軸距が1.3m以上で、かつ、当該隣り合う車軸に係る軸重が9.5 t 以下の場合は19 t)、1.8m以上の場合は20 t
輪荷重	5.0 t
最小回転半径	12.0m

ここでいう車両とは、人が乗車し、又は貨物が積載されている場合にはその状態におけるものをいい、他の車両をけん引している場合にはこのけん引されている車両を含む。

13. 交通誘導警備員の配置計画

受注者は、供用中の道路に係る工事の施工に当たっては、円滑(公平)な交通サービスを提供することが重要であることから、状況を十分把握するとともに、その対策について交通誘導警備員の配置計画を提出するものとする。

14. 交通誘導警備員の勤務実績報告

受注者は、交通誘導警備員を配置した場合は、「交通誘導警備員勤務実績報告書」を作成し、勤務実績が確認できる資料(勤務伝票の写し)とともに、1ヶ月ごとに監督員に提出しなければならない。

なお、受注者は、合格証明書の写し等資格要件の確認ができる資料を事前に監督員に提出しなければならない。また、検定合格警備員は、当該業務に従事している間は合格証明書を携帯し、かつ、監督員の請求があったときは、これを提示しなければならない。

15. 車両管理票の掲示等

受注者は、土砂等を運搬する大型自動車については、車両の前面の見やすい場所に車両管理票を掲示するとともに、車両名簿を作成して工事現場の作業員の見やすい場所に設置し、作業が完了するまで存置しておかななければならない。なお、車両名簿について監督員の請求があったときは、直ちに提示するものとする。

1-1-1-42 施設管理

受注者は、工事現場における公物（各種公益企業施設を含む。）又は部分使用施設（約款第34条の適用部分）について、施工管理上、契約図書における規定の履行を以つても不都合が生ずるおそれがある場合には、その処置について監督員と協議できるものとする。なお、当該協議事項は、約款第9条の規定に基づき処理されるものとする。

1-1-1-43 諸法令の遵守

1.諸法令の遵守

受注者は、当該工事に関する諸法令を遵守し、工事の円滑な進捗を図るとともに、諸法令の適用・運用は受注者の責任において行わなければならない。なお、主な法令は以下に示すとおりである。

- (1) 地方自治法
- (2) 建設業法
- (3) 下請代金支払遅延等防止法
- (4) 労働基準法
- (5) 労働安全衛生法
- (6) 作業環境測定法
- (7) じん肺法
- (8) 雇用保険法
- (9) 労働者災害補償保険法
- (10) 健康保険法
- (11) 中小企業退職金共済法
- (12) 建設労働者の雇用の改善等に関する法律
- (13) 出入国管理及び難民認定法
- (14) 道路法
- (15) 道路交通法
- (16) 道路運送法
- (17) 道路運送車両法
- (18) 砂防法
- (19) 地すべり等防止法
- (20) 下水道法
- (21) 航空法
- (22) 公有水面埋立法
- (23) 軌道法
- (24) 森林法
- (25) 環境基本法
- (26) 火薬類取締法
- (27) 大気汚染防止法
- (28) 騒音規制法
- (29) 水質汚濁防止法
- (30) 湖沼水質保全特別措置法
- (31) 振動規制法
- (32) 廃棄物の処理及び清掃に関する法律

- (33)文化財保護法
- (34)砂利採取法
- (35)電気事業法
- (36)消防法
- (37)測量法
- (38)建築基準法
- (39)都市公園法
- (40)建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律
- (41)土壌汚染対策法
- (42)駐車場法
- (43)船舶職員及び小型船舶操縦者法
- (44)自然環境保全法
- (45)自然公園法
- (46)公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律
- (47)国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律
- (48)河川法施行法
- (49)技術士法
- (50)漁業法
- (51)計量法
- (52)厚生年金保険法
- (53)資源の有効な利用の促進に関する法律
- (54)最低賃金法
- (55)職業安定法
- (56)所得税法
- (57)水産資源保護法
- (58)著作権法
- (59)電波法
- (60)土砂等を運搬する大型自動車による交通事故の防止等に関する特別措置法
- (61)労働保険の保険料の徴収等に関する法律
- (62)農薬取締法
- (63)毒物及び劇物取締法
- (64)特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する法律
- (65)公共工事の品質確保の促進に関する法律
- (66)警備業法
- (67)行政機関の保有する個人情報保護に関する法律
- (68)高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律
- (69)地方税法
- (70)徳島県ユニバーサルデザインによるまちづくりの推進に関する条例
- (71)徳島県生活環境保全条例
- (72)徳島県希少野生生物の保護及び継承に関する条例

2.法令違反の処置

受注者は、諸法令を遵守し、これに違反した場合発生するであろう責務が、発注者に及ばないようにしなければならない。

3.不適当な契約図書の処置

受注者は、当該工事の計画、図面、仕様書及び契約そのものが第1項の諸法令に照らし不適當であったり矛盾していることが判明した場合は、速やかに監督員と協議しなければならない。

1-1-1-44 官公庁等への手続等

1.一般事項

受注者は、工事期間中、関係官公庁及びその他の関係機関との連絡を保たなければならない。

2.関係機関への届出

受注者は、工事施工に当たり、自ら行うべき関係官公庁及びその他の関係機関への届出等を、法令、条例又は設計図書の定めにより実施しなければならない。

3.諸手続きの提示、提出

受注者は、諸手続きにおいて許可、承諾等を得たときは、その書面を監督員に提示しなければならない。なお、監督員から請求があった場合は、写しを提出しなければならない。

4.許可承諾条件の遵守

受注者は、手続きに許可・承諾条件がある場合は、これを遵守しなければならない。なお、受注者は、許可・承諾内容が設計図書に定める事項と異なる場合は、監督員と協議しなければならない。

5.コミュニケーション

受注者は、工事の施工に当たり、地域住民との間に紛争が生じないように努めなければならない。

6.苦情対応

受注者は、地元関係者等から工事の施工に関して苦情があり、受注者が対応すべき場合は、誠意をもってその解決に当たらなければならない。

7.交渉時の注意

受注者は、国、地方公共団体、地域住民等と工事の施工上必要な交渉を、自らの責任において行わなければならない。また、交渉に先立ち、監督員に連絡の上、これらの交渉に当たっては誠意をもって対応しなければならない。

8.交渉内容明確化

受注者は、前項までの交渉等の内容は、後日紛争とならないよう文書で取り交わす等明確にしておくとともに、状況を随時監督員に報告し、指示があればそれに従うものとする。

1-1-1-45 施工時期及び施工時間の変更

1.施工時間の変更

受注者は、設計図書に施工時間が定められている場合でその時間を変更する必要がある場合は、あらかじめ監督員と協議するものとする。

2.休日又は夜間の作業連絡

受注者は、設計図書に施工時間が定められていない場合で、官公庁の休日又は夜間に作業を行うときは、事前に休日・夜間作業届を監督員に提出しなければならない。

1-1-1-46 工事測量

1.一般事項

受注者は、工事着手後直ちに測量を実施し、測量標(仮BM)、工事用多角点の設置及び用地境界、中心線、縦断、横断等を確認しなければならない。測量結果が設計図書に示されている数値と差異を生じた場合は、監督員に測量結果を速やかに提出し指示を受けなければならない。

なお、測量標(仮BM)及び多角点を設置するための基準となる点の選定は、監督員の指示を受けなければならない。また、監督員が指示したときは、測量結果を監督員に提出しなければならない。

2.引照点等の設置

受注者は、工事施工に必要な仮水準点、多角点、基線、法線、境界線の引照点等を設置し、施工期間中適宜これらを確認し、変動や損傷のないよう努めなければならない。変動や損傷が生じた場合は、監督員に連絡し、速やかに水準測量、多角測量等を実施し、仮の水準点、多角点、引照点等を復元しなければならない。

3.工事用測量標の取扱い

受注者は、用地幅杭、測量標(仮BM)、工事用多角点及び重要な工事用測量標を移設してはならない。ただし、これを存置することが困難な場合は、監督員の承諾を得て移設することができる。また、用地幅杭が現存しない場合は、監督員と協議しなければならない。

なお、移設する場合は、隣接土地所有者との間に紛争等が生じないようにしなければならない。

4.既存杭の保全

受注者は、工事の施工に当たり、損傷を受けるおそれのある杭又は障害となる杭の設置換え、移設及び復元を含めて、発注者の設置した既存杭の保全に対して責任を負わなければならない。

5.水準測量・水深測量

受注者は、水準測量及び水深測量を設計図書に定められている基準高あるいは工事用基準面を基準として行うものとする。

6.丁張等の設置

受注者は、丁張、その他工事施工の基準となる仮設標識を設置しなければならない。

7.費用負担

受注者は、本条で規定する事項について、受注者の責任と費用負担で行わなければならない。

1-1-1-47 不可抗力による損害

1.工事災害の報告

受注者は、災害発生後直ちに被害の詳細な状況を把握し、当該被害が約款第30条の規定の適用を受けられる場合には、直ちに被害報告書により監督員に報告しなければならない。

2.設計図書で定めた基準

約款第30条第1項に規定する「設計図書で基準を定めたもの」とは、以下の各号に掲げるものをいう。

(1) 降雨に起因する場合

以下のいずれかに該当する場合とする。

- ① 24時間雨量(任意の連続24時間における雨量をいう。)が80mm以上
- ② 1時間雨量(任意の60分における雨量をいう。)が20mm以上
- ③ 連続雨量(任意の72時間における雨量をいう。)が150mm以上
- ④ その他設計図書で定めた基準

(2) 強風に起因する場合

最大風速(10分間の平均風速で最大のものをいう。)が15m/秒以上あった場合

(3) 河川沿いの施設の場合

河川のはん濫注意水位以上、又はそれに準ずる出水により発生した場合

(4) 地震、豪雪に起因する場合

周囲の状況により判断し、相当の範囲にわたって他の一般物件にも被害を及ぼしたと認められる場合

3.その他

約款第30条第2項に規定する「受注者が善良な管理者の注意義務を怠ったことに基づくもの」とは、設計図書及び約款第27条に規定する予防措置を行ったと認められないもの及び災害の一因が施工不良等受注者の責によるとされるものをいう。

1-1-1-48 特許権等

1.一般事項

受注者は、特許権等を使用する場合、又は設計図書に特許権等の対象である旨明示が無く、その使用に関する費用負担を約款第8条に基づき発注者に求める場合は、権利を有する第三者と使用条件の交渉を行う前に、監督員と協議しなければならない。

2.保全措置

受注者は、業務の遂行により発明又は考案したときは、書面により監督員に報告するとともに、これを保全するために必要な措置を講じなければならない。出願及び権利の帰属等については、発注者と協議しなければならない。

3.著作権法に規定される著作物

発注者が引渡しを受けた契約の目的物が著作権法に規定される著作物に該当する場合は、当該著作物の著作権は発注者に帰属するものとする。

なお、前項の規定により出願及び権利等が発注者に帰属する著作物については、発注者はこれを自由に加除又は編集して利用することができる。

1-1-1-49 保険の付保及び事故の補償

1.一般事項

受注者は、残存爆発物があると予測される区域で工事に従事する作業船及びその乗組員並びに陸上建設機械等及びその作業員に設計図書に定める水雷保険、傷害保険及び動産総合保険を付保しなければならない。

2.回航保険

受注者は、作業船、ケーソン等を回航する場合、回航保険を付保しなければならない。

3.保険加入の義務

受注者は、雇用保険法、労働者災害補償保険法、健康保険法及び厚生年金保険法の規定により、雇用者等の雇用形態に応じ、雇用者等を被保険者とするこれらの保険に加入しなければならない。

4.補償

受注者は、雇用者等の業務に関して生じた負傷、疾病、死亡及びその他の事故に対して責任をもって適正な補償をしなければならない。

5.掛金収納書の提出

受注者は、建設業退職金共済証紙購入証明書を工事請負契約時に、発注者に提出しなければならない。なお、建設業退職金共済制度に加入した場合には、別に定める標識(シール)を工事現場の見やすい場所に掲示しなければならない。

1-1-1-50 臨機の措置

1.一般事項

受注者は、災害防止等のため必要があると認めるときは、臨機の措置をとらなければならない。また、受注者は、措置をとった場合には、その内容を直ちに監督員に報告しなければならない。

2.天災等

受注者は、天災等による工事の中断について、臨機の措置により適切に対応しなければならない。監督員は、天災等に伴ない、工事目的物の品質・出来形の確保及び工期の遵守に重大な影響があると認められるときは、受注者に対して臨機の措置をとることを請求することができる。

1-1-1-51 新技術活用の促進

受注者は、新技術情報提供システム(NETIS)及び徳島県の「建設工事に関する新技術等の情報データベース」等を活用することにより、使用することが有用と思われる新技術等が明らかになった場合は、監督員に報告するものとする。

1-1-1-52 市内産技術等の優先使用

受注者は、市内企業が開発した技術等(技術、材料、工法)を優先して使用するよう努めるものとする。

1-1-1-53 標準断面図板の設置

受注者は、別に定めるものを除くほか、工事現場の公衆の見やすい場所に標準断面図板(様式第1号)を設置し、工事しゅん工検査が終了するまで存置しておかななければならない。ただし、標準断面図の設置が不可能な場合には、監督員との協議により、しかるべき処置を講じなければならない。

様式第1号

標準断面図縮図

工事名		事業主体	
		受注者	
		電話番号	
路線・ 河川名等		現場代理人	
		主任技術者 又は 監理技術者	
施工箇所		工期	年 月 日 着 工
施工延長			年 月 日 完 成

50から100まで

70から
120まで

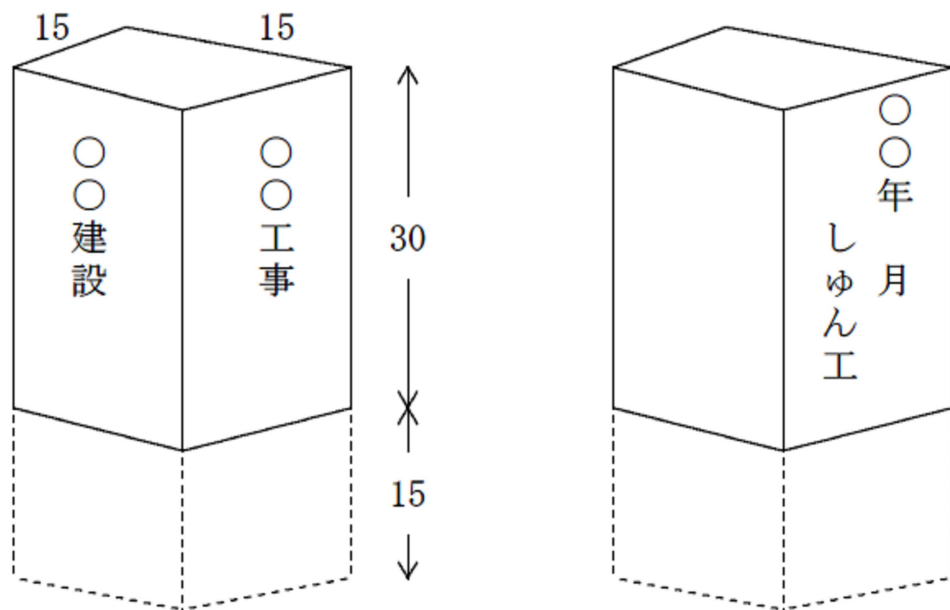
備考 長さの単位は、センチメートルとする。

1-1-1-54 しゅん工標の設置

受注者は、別に定めるものを除くほか、工事が完成したときは、恒久的に工事の施工の責任を明示するため、工事現場に石材、コンクリート若しくはこれらに類する材質による標柱(様式第2号)又は標板(様式第3号)を設置しなければならない。なお、設置場所については、監督員の指示によらなければならない。

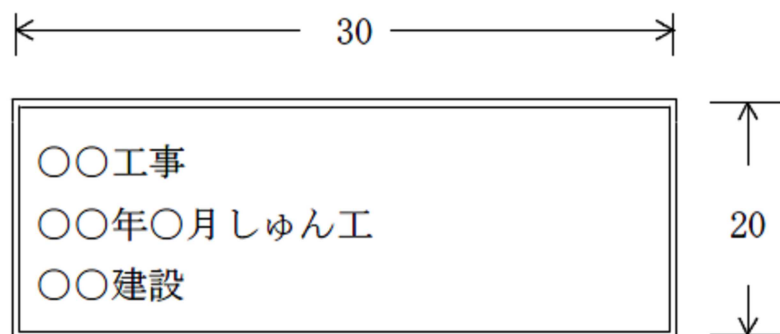
また、浚渫、仮設工事等、しゅん工標の設置不可能な場合又は橋歴板若しくは表示板を別途設置する場合において、監督員が承諾したときは省略することができる。

様式第2号



備考 長さの単位は、センチメートルとする。

様式第3号



備考 長さの単位は、センチメートルとする。

1-1-1-55 創意工夫

受注者は、自ら立案し実施した創意工夫若しくは技術力に関する項目又は地域社会への貢献として評価できる項目について、工事しゅん工検査請求書提出時までに監督員の指示する所定の様式により、監督員に提出することができる。

1-1-1-56 不正軽油の使用禁止

受注者は、ディーゼルエンジン仕様の車両及び建設機械等を使用する場合は、地方税法に違反する軽油等を燃料として使用してはならない。また、県の徴税吏員が行う使用燃料の採取調査に協力しなければならない。

1-1-1-57 暴力団等からの不当要求又は工事妨害の排除

- (1) 受注者は、工事の施工に関し、暴力団等から工事妨害(以下「不当介入」という。)を受けた場合(2)に規定する場合は、下請負人から報告があったときには、その旨を直ちに発注者に報告するとともに、併せて所轄の警察署に届け出なければならない。
- (2) 受注者は、本工事の一部を下請に付する場合、下請工事の施工に関して下請負人が

暴力団等から不当介入を受けたときは、受注者にその旨を報告することを義務付けなければならない。

- (3) 受注者は、発注者及び所轄の警察署と協力して不当介入の排除対策を講じなければならない。
- (4) 受注者は、排除対策を講じたにもかかわらず、工期に遅れが生じるおそれがある場合には、発注者と工程に関する協議を行い、その結果、工期内に工事が完成しないと認められる場合は、約款第22条の規定により、発注者に工期延長の請求を行わなければならない。
- (5) 受注者は、暴力団等から不当介入による被害を受けた場合は、その旨を直ちに報告し、被害届を速やかに所轄の警察署に提出しなければならない。
- (6) 受注者は、前項被害により工期に遅れが生じるおそれがある場合は、発注者と工程に関する協議を行い、その結果、工期に遅れが生じると認められた場合は、約款第22条の規定により、発注者に工期延長の請求を行わなければならない。

1-1-1-58 ワンデーレスポンス

受注者及び発注者は、現場で発生した諸問題に迅速に対応し、工事を円滑に進めていくため、互いの質問、協議に対しては基本的に即日回答するよう努めなければならない。なお、即日回答が困難な場合は、その日のうちに回答期限を示し、回答期限までに回答するものとする。

1-1-1-59 地元建設資材の優先使用

受注者は、建設資材を調達するに当たり、美馬市産品を活用するよう努めるものとする。また建設資材を調達するに当たり、美馬市内の販売業者から調達するよう努めるものとする。

第2章以降については、徳島県土木工事共通仕様書を準用する